

神戸学院大学地域研究センター

2011年度 地域研究プロジェクト活動報告会

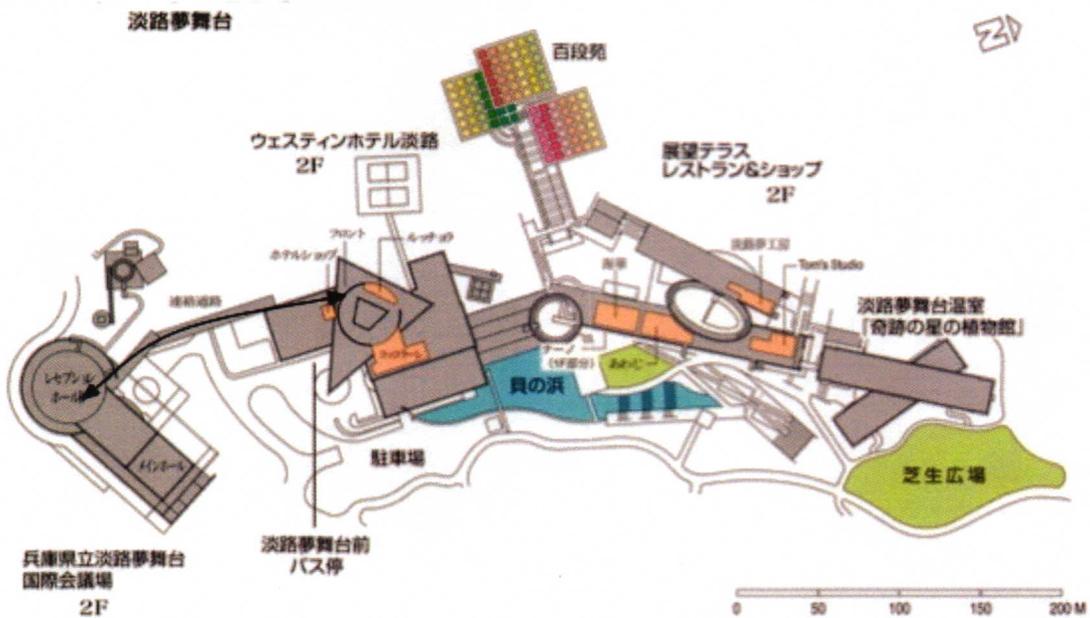
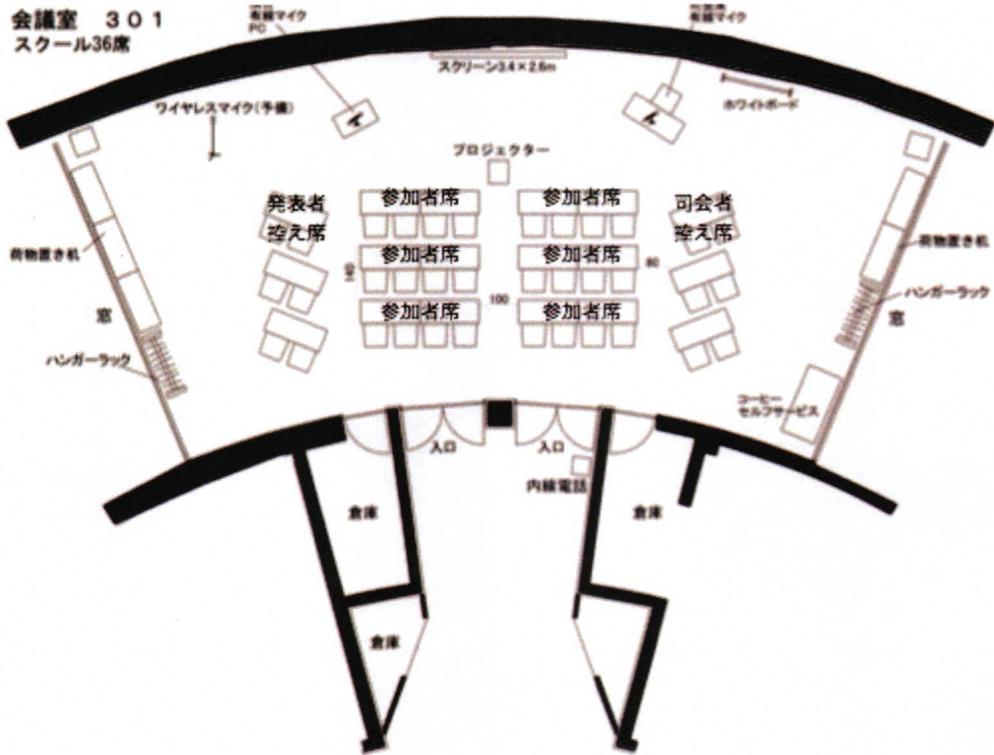


2012年3月16日(金)13:00 ~17日(土)14:00

ウェスティンホテル淡路(淡路夢舞台国際会議場)

第1日目 プログラム

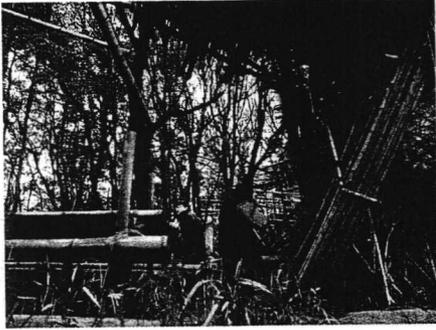
- 開会挨拶 (13:30 - 13:35) 伊藤 茂
- 第1部 PD・RA 研究報告 (13:35 - 14:00)
- 13:35 - 13:50 「学生が感じるキャンパス内の『不安・イヤ』な場所に関する調査」 板山 昂(RA)
- 13:50 - 14:05 「人・街・ながた震災資料室所蔵自治労中央本部資料の整理作業と分析」 林田 怜菜(RA)
- 14:05 - 14:20 「地域社会における『ものづくり』の可能性『アール・ブリュット』概念の省察を通して」 倉田 誠(PD)
- 14:20 - 14:35 「地域に根差した研究をめざして」 細淵 清貴(PD)
- 休憩(15分)
- 第2部 センター別研究報告 (14:50 - 18:00)
- 14:50 - 15:40 「2011年度地域研究明石エリア活動報告」[明石グループ] 寺嶋 秀明
- 15:40 - 16:30 「地域住民への直接的・間接的心理支援のための交流・拠点づくり」[有瀬グループ]
- ・はじめに 全体の目的と組織構造 清水 寛之
 - ・地域への直接的心理支援 清水 寛之
 - ・地域への間接的心理支援 日高 正宏
 - ・地域への安全・安心の心理支援 吉野 絹子
- 休憩(10分)
- 16:40 - 17:30 「『地域力再発見』を考える 地域研究長田センター実践研究報告」[長田グループ] 水本 浩典
大塚 成昭
細淵 清貴(PD)
林田 怜菜(RA)
- 17:30 - 18:00 総合討論
- 夕食 18:00 - 19:00
- 第3部 情報交換会 (19:30 - 20:55)
- 閉会挨拶 20:55 - 21:00 伊藤 茂



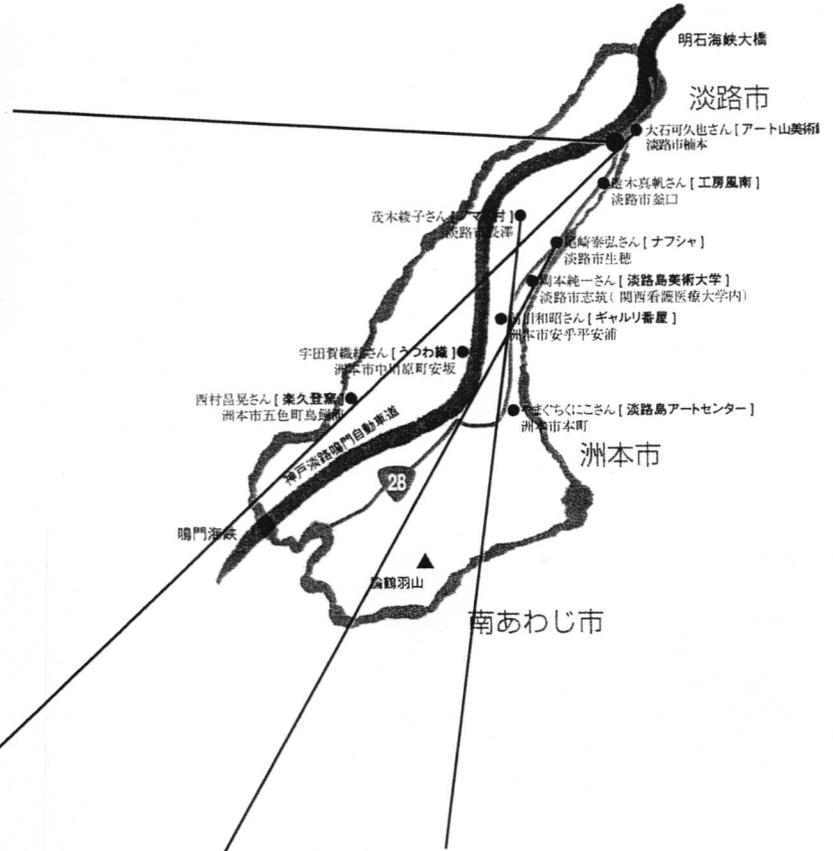
第2日目 プログラム

時間	見学場所	
9:00	ウェスティンホテル 出発	淡路市夢舞台 2 (☎0799-74-1111)
	↓ バス・徒歩移動(20分)	
9:20-9:50 (30分)	冒険の森 説明・見学	淡路市楠本 314 (☎0799-74-5879)
	↓ 徒歩移動(20分)	
10:10-11:00 (50分)	アート山大石可久也美術館 説明・見学	淡路市楠本 2159 (☎0799-74-5565)
	↓ 徒歩・バス移動(20分)	
11:20-12:10 (50分)	cafe nafsha 見学・昼食(要予約)	淡路市生穂 1604 (☎0799-64-1121)
	↓ バス移動(20分)	
12:30-13:20 (50分)	ノマド村 説明・見学	淡路市長澤 727 (☎0799-70-1165)
	↓ バス移動(40分)	
14:00	神戸学院大学 到着	

1. プレイパーク淡路島冒険の森



2003年に、元校長である"こみじい"さんと"こみばあ"さんによって開園。古民家や里山を利用して、子供たちがボランティアのプレイリーダーのもとで「どこまでが安全か」を自分で体験しながら、自然のなかで遊びを創り出すことを目指す空間となっている。



2. アート山大石可久也美術館



2004年に、洋画家である大石可久也・鉦子夫妻を中心とするNPO「淡路大磯アート山を創る会」によって開館。眼下に紺碧の海を望む山全体を美術空間にするという構想のもとで活動を続けている。

3. 発明工房/Cafe Nafsha



2005年に、現代美術家の尾崎泰弘が廃倉庫のなかにあった機械やガラクタを利用してアトリエ兼展示スペース「発明工房」を開設。その後「空き家リノベーションプロジェクト」に賛同し、隣にある倉庫の2階にアートスペース(ライブ空間)を設けた。現在では、アートスペースの奥に無国籍料理を提供する「Cafe Nafsha」も併設されている。

4. ノマド村/Cafe Nomad



2009年から、ドイツ人映像作家のヴェルナー・ペンツェルと写真家の茂木綾子が廃校となった旧生穂第二小学校の跡地に移住し、音楽家の下村美佐とともに「ノマド村」を開設。近隣地域の人びとや国内外からの訪問者がこの場を共有活用し、流動的に変化を続ける、開かれた場を創造するとともに、未来型の生活スタイルを模索・提案することを目的としている。

発表関連資料

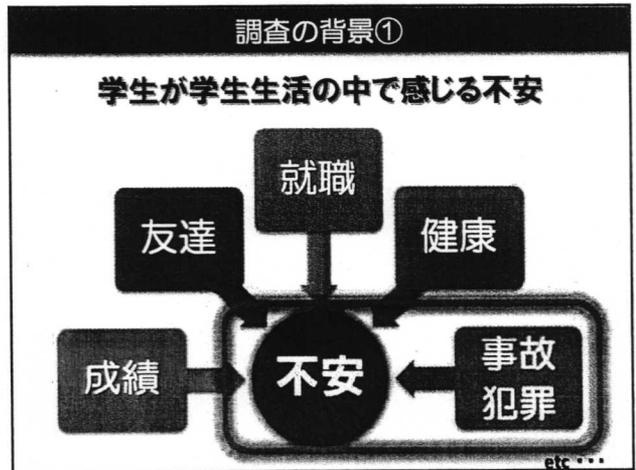
PD・RA 研究報告	8
センター別研究報告		
地域研究センター明石グループ	22
地域研究センター有瀬グループ	28
地域研究長田センター	56

神戸学院大学 



**学生を感じる
キャンパス内の
「不安・イヤ」な場所
に関する調査**

神戸学院大学
地域研究センター 有瀬センター
リサーチアシスタント
板山 昂



調査の背景②

事故犯罪 学外だけでなく、キャンパス内で事故や犯罪の不安を感じてしまうと、学生が安心して大学に通うことができない。

対策1 監視カメラの設置

対策2 警備員の見回り

対策3 エスコートサービス

学生は、
キャンパス内の
どのような場所で
不安を感じるのか？

↓

把握する必要がある

調査の目的

神戸学院大学有瀬キャンパスにおいて、
学生が「不安」「イヤ」だと感じている
具体的な場所を明らかにする。

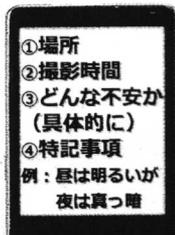
学生の学生生活における
安心・安全 を考えるための
基礎資料となると考える



調査の方法①

調査時期： 2011年7月～8月に実施した。
参加者： 神戸学院大学人文学部の1回生16名と3回生12名、計28名が調査に参加した。

手続き：



①場所
②撮影時間
③どんな不安か(具体的に)
④特記事項
例：昼は明るいが夜は真っ暗

写真を添付し、説明を加える。

送信

キャンパス内で「不安」もしくは「イヤ」と感じる場所を撮影す

調査の方法②

本調査における「不安」と「イヤ」な場所

- 犯罪にあいそうな気がする場所
(痴漢にあいそう。ひったくられそう。・・・など)
- 実際に犯罪の被害にあったことがある場所
- 人が少なくてこわい場所・・・
- 人がたむろしていてイヤ・・・
- 迷惑行為がよくされている
- 校舎が汚くてなんかイヤ・・・
- 夜になると暗くてこわい
- よくわからないけど・・・なんか怖い・・・
- 不審者が出た・見たりした

※犯罪被害にあいそうなどの狭い意味ではない。

結果①

学生より送信された写真、本文のデータの中で、場所が特定でき、不安・イヤである内容が理解できるものは 167件 であった。

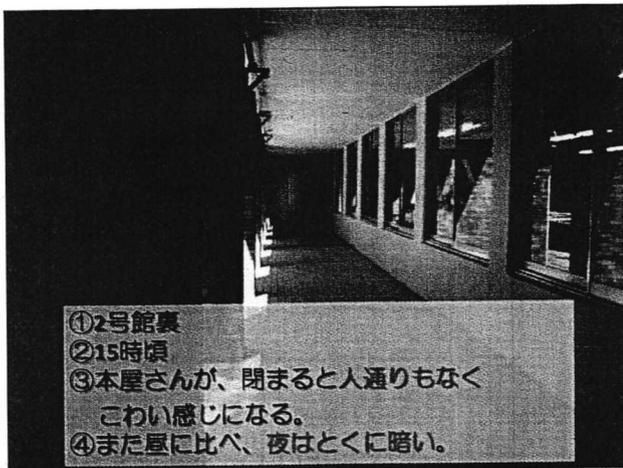
学生より得た167件のデータを分類した

Table 1 キャンパス内の不安・イヤな場所の大分類

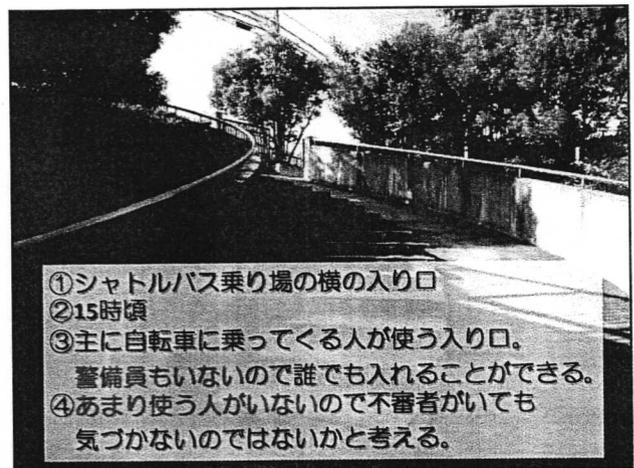
不安・イヤ	迷惑行為がされる	施設の問題
120件	34件	45件

分類した際に、1つのデータに1つ以上の内容があったため、重複してカウントした。

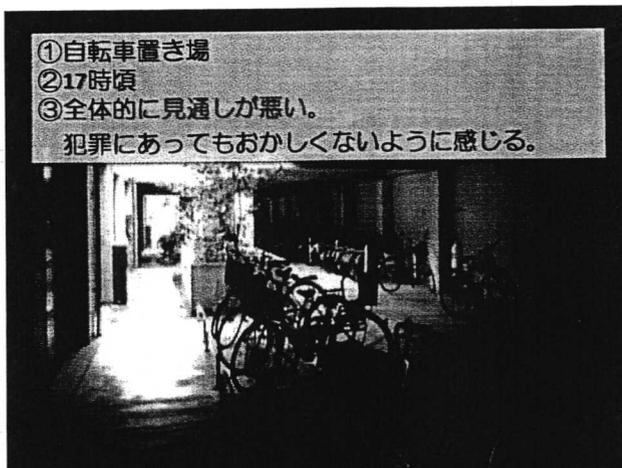
不安・イヤな箇所マップ



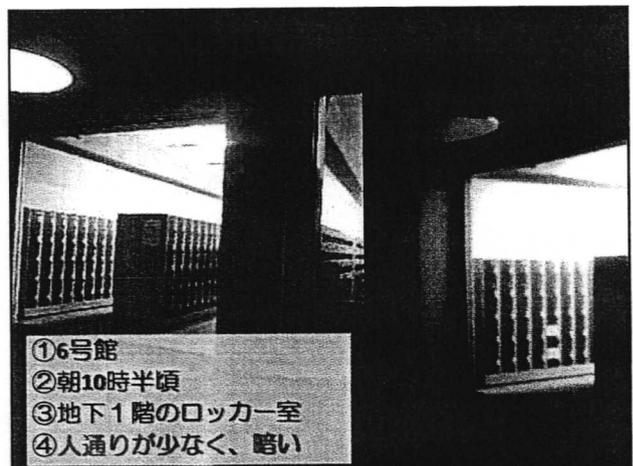
- ①2号館裏
- ②15時頃
- ③本屋さんが、閉まると人通りもなく
こわい感じになる。
- ④また昼に比べ、夜はとくに暗い。



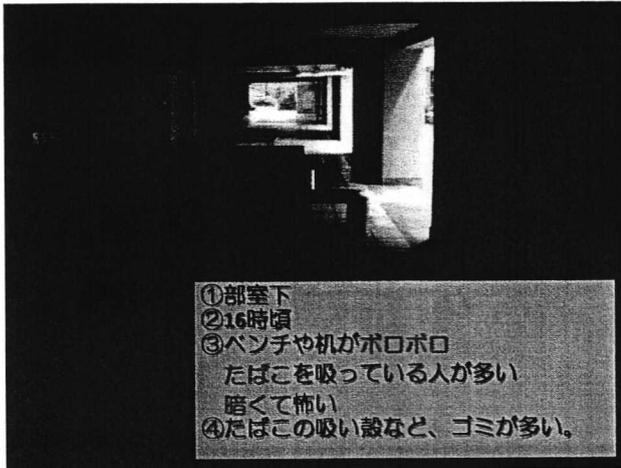
- ①シャトルバス乗り場の横の入り口
- ②15時頃
- ③主に自転車に乗ってくる人が使う入り口。
警備員もいないので誰でも入れることができる。
- ④あまり使う人がいないので不審者がいても
気づかないのではないかと考える。



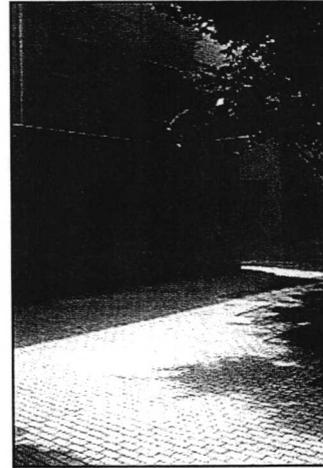
- ①自転車置き場
- ②17時頃
- ③全体的に見通しが悪い。
犯罪にあってもおかしくないように感じる。



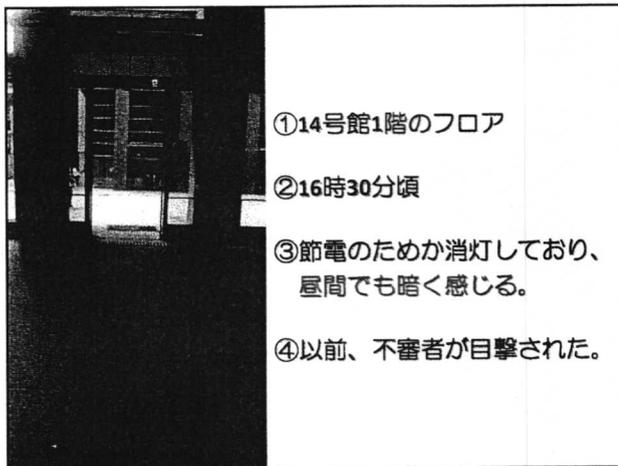
- ①6号館
- ②朝10時半頃
- ③地下1階のロッカー室
- ④人通りが少なく、暗い



- ①部室下
- ②16時頃
- ③ベンチや机がボロボロ
たばこを吸っている人が多い
暗くて怖い
- ④たばこの吸い殻など、ゴミが多い。



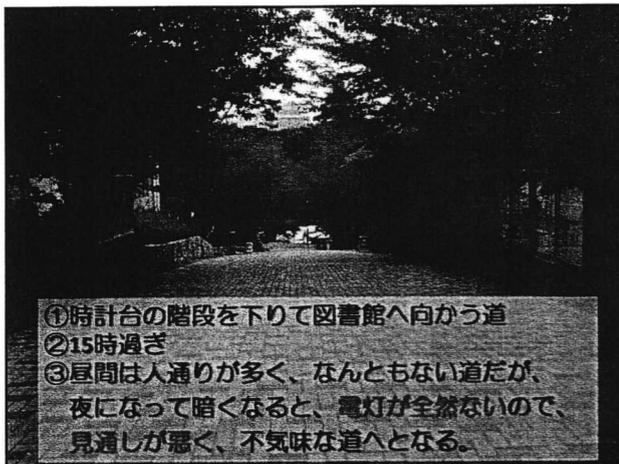
- ①4号館入口付近
- ②13:40頃
- ③相談室が近くにあるが、
人気が少ない。
- ④夜になると暗くなって、
雰囲気が悪くなる。



- ①14号館1階のフロア
- ②16時30分頃
- ③節電のためか消灯しており、
昼間でも暗く感じる。
- ④以前、不審者が目撃された。



- ①学生食堂裏の女子トイレ
- ②17時頃
- ③全体的に薄暗く、古い。
- ④人通りが多い場所だが、
非常に薄暗く怖い。



- ①時計台の階段を下りて図書館へ向かう道
- ②15時過ぎ
- ③昼間は人通りが多く、なんともない道だが、
夜になって暗くなると、電灯が全然ないので、
見通しが悪く、不気味な道へとなる。

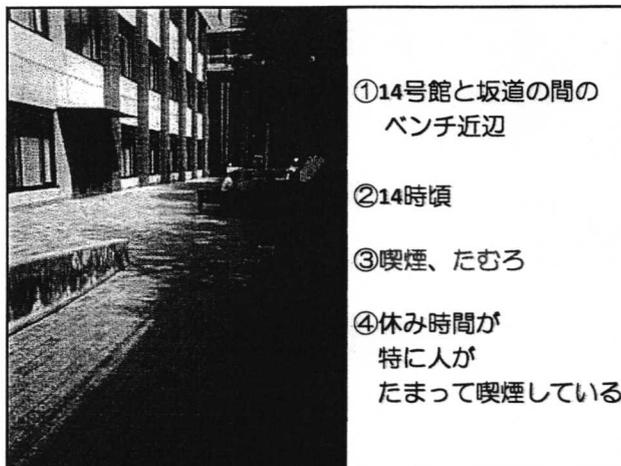
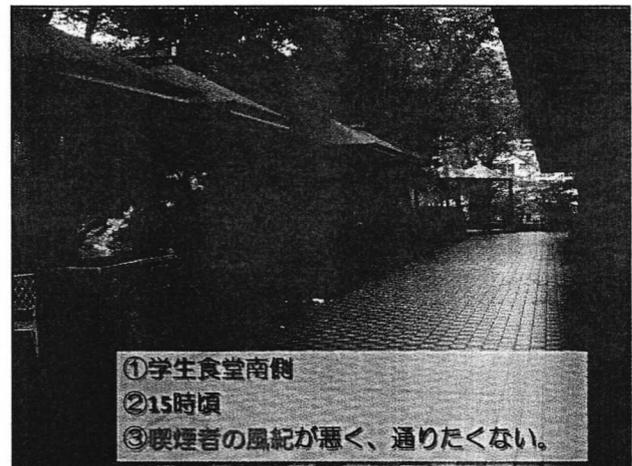
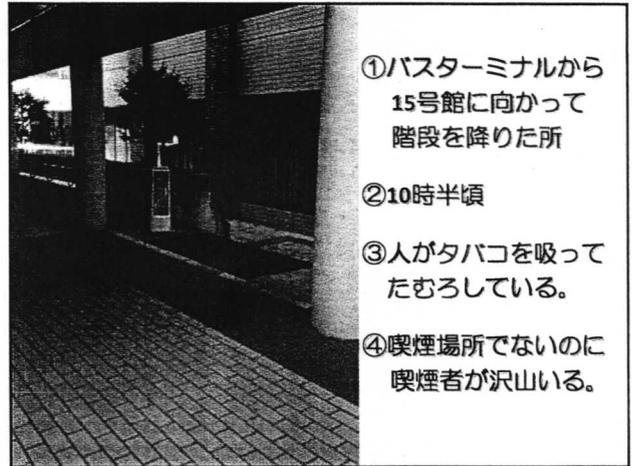
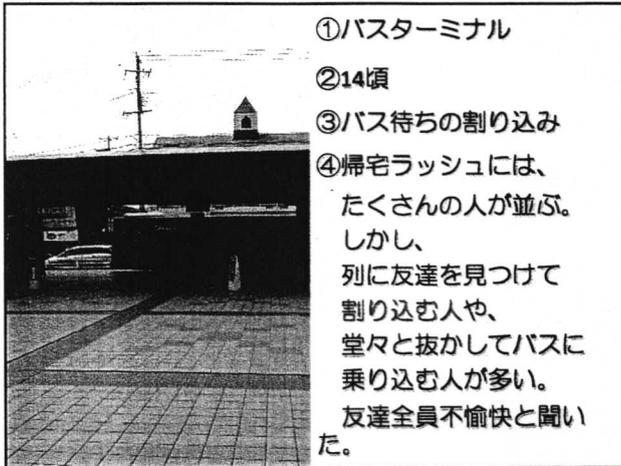
不安・イヤな場所

多くが「暗い」という内容であった。
屋外で外灯がない（もしくは少ない）ため、
夜になると不安であるという内容が多かった。
屋内において屋夜に関係なく暗い場所があり、
その場所が危険(不安)であると学生は感じている。

キャンパス内の明るさについて考える必要がある。

人目につきにくく、
人通りが少ないひっそりした場所が
屋外・屋内にあり、学生が不安に感じている

警備員の見回りなどを強化する必要性があ



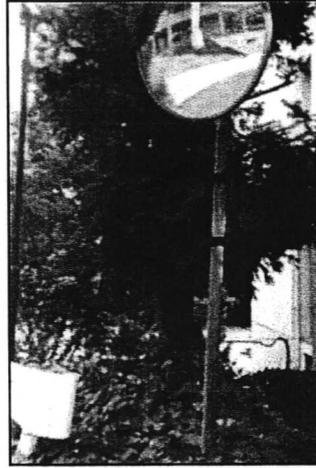
迷惑行為がされる場所

34件中28件が喫煙指定場所以外での**迷惑喫煙**
特に、11号館と14号館の間ではその件数が多い。
個人のタバコの煙に対する嫌悪、
受動喫煙の不安や危険性だけでなく、
「前を通るのが怖い」という内容があった。

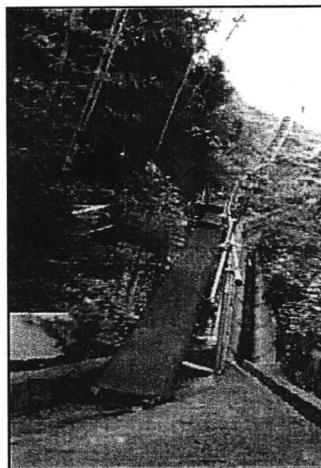
**キャンパス内での移動時における不安もうかがえる。指定喫煙場所以外での喫煙に対する対応
が求められると考えられる。**



- ①食堂裏にある旗
- ②4時半頃
- ③不快感
- ④破れたのか
破かれたのか
わからないが、
破れているもの
を使っているのが
不快に思った。



- ①8号館横のカーブミラー
- ②16時半頃
- ③清潔感がない



- ①バイク置き場の
奥にある階段
- ②16時頃
- ③バイク置き場の
通路の横にある階段。
この階段を上がると
ジョイフルに出られる。

簡易なつくりでとても危険



- ①バレーコートから
第1駐車場への坂道
- ②16時頃
- ③本当に人気がなく、
夏場になると
スズメバチがでた
夜は外灯が少なく暗
い。



- ①1号館3階の窓
- ②お昼頃
- ③万が一のことを
考えたら危ない
- ④窓が大きいわりに
転落防止の棒が
少なく危険

施設の問題箇所①

多かった内容

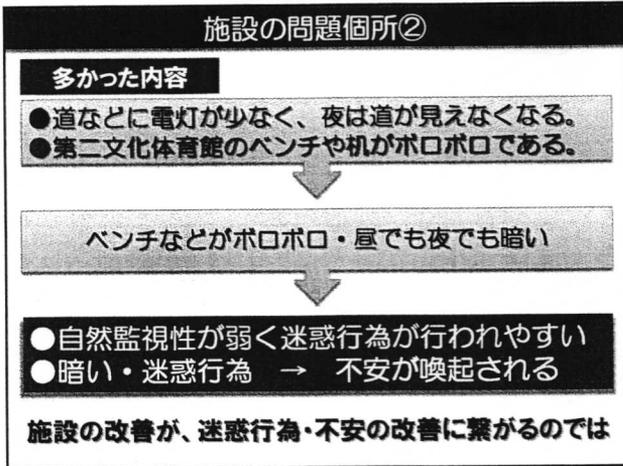
- 道などに電灯が少なく、夜は道が見えなくなる。
- 第二文化体育館のベンチや机がボロボロである。

↓

電灯の少なさは、キャンパス内の暗さの原因となり、暗さは**不安**をもたらす(不安な場所参照)。

↓

電灯が少ない、明るさが足りないことは、**不安**が喚起されるだけでなく、**不審者の発見が遅れる危険性**も考えられる。

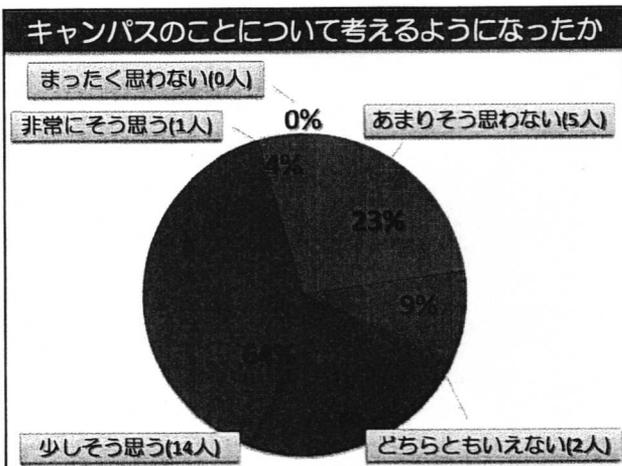


事後アンケート

調査時期 2011年11月に実施した。

参加者 キャンパス内の不安箇所に関する調査に参加した学生28名中22名より回答を得た。

手続き キャンパス内の不安な箇所に関する調査に参加してみて、以前よりキャンパスのことについて考えるようになったか(5件法)に回答を求めた。



事後アンケートから

約70%の人がキャンパスのことについて以前より考えるようになった。

今回のような調査は、学校側が学生の感じる不安・イヤな場所を把握するだけでなく、学生自身が自分の通っている学校(キャンパス)に目を向け、「より良くしてほしい(していきたい)」と考える機会にもなると考えられる。

Table 2 不安・イヤな場所の内容①

場所	内容	備考	件数
2号館情報処理実習室 への階段-廊下	人目につきにくいような所ではないかと思う 一人で通るとき、いつも警戒しながら通る。	いつも暗い	6
2号館裏	本屋さんがまだ開いているためあまり感じないが、閉まると人通りも なくさびしい感じになる。	昼に比べ、夜はとくに暗い。	4
2号館のEV	ひとりで乗るのは不安		1
3号館入口左横の階段下	上から死角になっているのが危険		2
4号館裏	外灯が一つしかない 踏み均された道筋があり昼間でも気味が悪い	気味が悪かったため撮り行くことすら躊躇した	3
4号館と4号館別館の間	ハラスメント相談室へと続く階段を降りると右手側に見える 相談室が近くにあるのだが、その割には何となく近寄りた い雰囲気、人気も少ない。	人の気配がせず、大変嫌な雰囲気があるように思う 夜になると暗そう	4
4号館横	夜危なそう	人の姿は全くない	1
4号館の横の階段	あまり使われていなく、夜は暗い。電灯がひとつあるが電球がきれて いるらしい。		1
ロッカー室外の通路	階段を降りたところで周りから見えない。人気がないため一人だと 怖い。	夜に一人ロッカー室使用中人影が見えたため、変質者だ とどうしようと思ったことがある。	1
地下1階のロッカー室	地下1階のロッカー室。電気が感知式のため、ロッカー室を使用 中突然消えることがある。人気がなく、一日中薄暗い。	夜はさらに暗く、隣に男子更衣室があるため身の危険を 感じる。自分の中では、最も恐怖を感じる場所である。	4
6号館の階段を降りてすぐ	時間帯に関係なくすぐぐらいため若干ぶさみで一人で降りにくい		1
6号館前の坂	学内なのに、車がよく通るので、ひかれそうで怖い		1
7号館裏変電設備近く	人目につきにくいと連れ込まれて何かされそう	周りから見えにくく人通りがなかった。 昼間でも何となく薄暗い。	1
7号館と9号館の間の階段	昼でも木があるため少し暗い。	人もあまり通らないので夜はもっと暗く、怖いと感じる。	3
7号館横の通路	昼でも木が多いので見通しが悪い。夜になるともっと怖いと感じる		3
7号館横の階段下	一応、下に道が続いているが、使う人はほとんどおらず、人気が少な い。たまに、座りこんでいる人がいたりするなど、他の人から見 ても嫌な雰囲気であると思われる。		1
7号館の階段	暗くて一人で降りるのが怖い電気がついていないことが多い。昼間 でも薄暗いので不安を感じやすそう		3
7号館と9号館の間	昼間は人通りが少ないが、まだ明るい。 だが、暗くなると、電灯もない		3
学生食堂横のトイレ	とても暗く、奥まっているため人目に付きにくい。 雨の日や夜になると、すごく近寄り難い暗さ。		2
8号館の図書館よりの入口	薄暗い校舎で入口も狭い	影になっていて入るのが嫌	1
9号館の2階から3階にのぼる階段	電気がついてなく、日の光の差し込みが少なく薄暗い状態。人通り が少なく、雰囲気も悪く犯罪が起こりやすそうに思われた。	どの時間帯でも雰囲気が悪い。	2
9号館1階裏	学外への出入り口があり、一般人の出入り容易	人通りが少ない	1
10号館と15号館の通り道	普段から人が少なく、たまに人がたむろしていることがある。夜にな ると非常に暗くなり、たいていダンス部(?)の練習をしている人が増 える。	どちらにしろかなり暗くなるので、なにかあった時に対応し にくそうである。	2
10号館付近	死角になっているところが多いように思う。ひとりでは通りづらい		2

Table 3 不安・イヤな場所の内容②

11号館下の入口	11号館下自体がひっそりしており、出入口というより裏口に近い印象がもたれる。	このほかこの入口は使う人はほとんどおらず、何かあってもわからない可能性が非常に高い。	3
113A講義室前	6限を受けた帰り真っ暗で誰かが何処かに潜んでいそうで怖かった。	講義室の中は真っ暗で不気味だった。渡り廊下は人通りが全くなく本当に真っ暗で周りが見えにくかった。防犯も兼ねて夜は照明を点灯して欲しい。	1
11号館から15号間にかけての渡り廊下	人通りが少ないときにここを通るとき襲いかかってこられたり何かあったとき逃げ場がない。	夕方から夜にかけて人通りがほとんどない。	1
11号館下の倉庫	不気味で怖いと感じた		1
11号館B1の裏	喫煙、たむろ、業者の人がよくいるため、不審者がいてもわからない	人通りが少ない	1
14号館の階段(第2体育館側)	人数が少なく、たまに座りこんでいるひとがいる。夜は暗いときがあり、全体的にひっそりとしたイメージがある。		3
14号館の一階のフロア	節電のためか消灯しており、昼間でも暗い		1
自転車置場の下、学生会館の裏	自転車置場の1階にあるスペース。鬱蒼として暗く、不審者が隠れていてもわからない場所だと言える。喫煙者もいる	夜になると暗くて、恐怖を感じる。	4
自転車置き場	全体的に見通しが悪い	犯罪にあってもおかしくない	2
自転車置き場前の通路	狭く長いので、昼も夜も不安		2
第一駐車場に行くまでの道	夜、一度歩いたことがあるが電気も少なくすっ暗いと感じていた。また人通りも少ないので余計に怖いと感じる。	昼間は明るいですが、夜になると街灯がなく、道が見えなくなる。	9
駐車場に行くまでの道	8時半以降になるとバイクが通る為、危ない。見通しが悪く、事故が起る可能性がある。		1
駐車場	人が少なく誰でも入れそう		2
バイク置き場の入り口付近	歩行者として端を歩いているとスピードが出ているバイクが後ろからくるので危ないと感じる時がある。	夜は暗いのでとくに危険があると思う	1
バイク置き場に入るまでの道	バイク通学の人が駐輪場に行く為に通る道。スピードを出して走る人が多い為、衝突する事故が起きそうで不安を感じる。	駐輪場の入口近くにある坂にガードレールなどが無い為、危ない。	2
駐輪場へ続く道・テニスコート付近	電灯があるが、夜になると暗くなり見通しがさらに悪くなる。夜になると、うっすらとしたオレンジ灯だけになり非常に暗い。友達と一緒に歩いていても怖いし、一人だとホントに歩くのが嫌	また、遅い時間になるとバイクが大学から出るためにこの道を通ることになり、さらに危険な道になる。	1
シャトルバス乗り場の横の入り口	自転車に乗ってくる人が使う入り口。警備員さんもないので誰でも入れることができる。今回調査のため初めて来たが、昼でも人がいなかったため夜はもっとさびしい場所	あまり使う人がいないので不審者がいても気づかない	1
図書館の裏	昼でもあまり学生の人通りがない。奥に車が止めてあって、不審者がいても来客者だと勘違いしてしまう可能性がある。隣に池がありベンチもあるので人がたむろするかもしれない。	人があまり来ないので、不審者がいてもわからないのではないかと思う	3
図書館下池の横	とにかく何だか嫌な感じ。池も汚いし、無機質な感じもするし、人目にも付きにくい場所。		4
図書館の下	不審者がいてもおかしくない。このスペースがあるのが怖い		2
第2文化体育館2階	普段部活のため使うが、部室の明かりが消えると廊下は何も見えなくなる。遅い時間だと人通りもないので怖いと感じる。	昼も廊下はすっ暗いが、夜になるとますます暗くなる。	2
第2文化体育館	人通りが少なく、もし不審者がいてもわかりにくい。	昼間は明るいですが、夜になると外灯がなく暗い。	5
第2文化体育館下(洗濯物を干す場所)	部活以外の人が入っても怪しまれない場所。昼でも暗い昼でも暗い	昼間でも人通りが少なく、暗い。	10
バレーコートから第3グラウンドへの道	昼間でも人通りが少なく、夜になると外灯がない為に暗く、一人で歩くと恐怖を感じる。	昼間はハチが多く、刺される危険性がある。	1
バレーコートから第1駐車場へ行く道	昼間でも鬱蒼としており、暗い。夜になると真っ暗になり、不審者がいてもわからない。	落ち葉等が多く、転倒する危険性がある。	1
グラウンドから池に行く最中にある山道	学校裏の駐車場への通り道で、一般人の出入りが容易。	人通りが少ない。日中でも暗い道	1
テニスコート横の坂から外に通じる道	この道から部外者が入ってくるのを見たことがある。		1
学生会館1階のまわり	昼間でも人通りがまばらであり、たばこを吸っているなどの迷惑行為が目立つ。	夜になると暗く、見通しが悪い。	1

Table 4 迷惑行為がされる場所の内容

場所	内容	備考	件数
第2体育館の横の自販機	いつもではないが、人がたかっていることが多く、タバコを吸っている輩もいる。夜は明かりがあるので暗くないが、たまり場であることが多い。		1
食堂横の机とベンチがある所 8号館側	人がたむろしていて、タバコを吸っていたりするので怖い。不愉快。		1
11号館と14号館の間	近くに喫煙所があるにもかかわらずこのあたりでタバコを吸っている人をよく見る。タバコを吸わない人にとっては嫌でならない。前を通るのが怖い。 喫煙所でもないにもかかわらず、タバコを吸っているアホがいる。神戸学院大学へ訪れた来賓の方たちへの印象も良くないと思うし、大学の風紀もレベルも下げられている気がするので、厳しく取り締まってほしい。	とくに昼休みなどはひどいと感じる。	13
11号館B1の裏	喫煙、たむろ	人通りが少ない	1
11号館各階エレベーター出て右側にある、テラス的な場所	タバコを吸っている人をよく見かける。		1
14号館の階段(第2体育館側)	人気が少ない、たまに座りこんでいるひがいる。		3
14号館と坂道間のベンチ近辺	喫煙、たむろ	休み時間が特に人がかたまって喫煙している	1
第2文化体育館下	この場所でたばこを吸っている人がおり、迷惑行為が行われている。	たばこの吸い殻など、ゴミが多い。汚い	9
大会館1階のまわり	昼間でも人通りがまばらであり、たばこを吸っているなどの迷惑行為が目立つ。	夜になると暗く、見通しが悪い。	1
バスターミナル	いつもバスを待つて並んでいると、横入りされ、抜かされるので、イライラする。		3
			34

Table 5 施設の問題箇所の内容

場所	内容	備考	件数
2号館3階の窓	窓が大きいわりに転落防止の棒が少なく危険		1
4号館の横の階段	あまり使われていなく、夜は暗い。電灯がひとつあるが電球がきれているらしい。		1
ロッカー室外の通路	床が非常に滑りやすく、雨の日などは早歩きでも転倒してしまう可能性がある。 現状は、濡れた床を拭きとるなどの対策もされていない。 ←提案として、通路に入る直前に、靴の水を吸い取るカーペットなどを敷いてみても良いと思う。		1
6号館2階トイレ	校舎が古いせいかわかりませんが、あまり綺麗ではなく、不快。ここは使用せず、隣の3号館のトイレを使用している人も多い。扉があるものの、いつも開いたままになっていて、手洗い場などが廊下から見えるのも、あまり使用したくない理由の一つ。隔離されているはずの場所が、そうではないのに違和感を感じる		1
7号館と9号館の間	昼間は人通りが少ないが、まだ明るい。 だが、暗くなってくると、電灯もない		3
8号館横のカーブミラー	曇っているので見にくいのではないかとと思う。 汚く見える		1
食堂裏にある旗（喫煙マナー）	破れたのか破かれたのかはわからないが、破れているものを使っているのが不快に思った		1
8号館前の道の横の溝	ふたがなくあぶない		1
9号館裏の道	柵がないところがあり、つまずいたら落ちそうな気がする		1
10号館1階の池	柵がなく危ない		1
113A講義室前		講義室の中は真っ暗で不気味だった。渡り廊下は人通りが全くなく本当に真っ暗で周りが見えにくかった。防犯も兼ねて夜は照明を点灯して欲しい。	1
11号館2階のトイレ	洋式トイレが、水道と壁1枚挟んだすぐ隣にあり、距離が近すぎて、トイレをしていて落ち着かない。		1
11号館のエレベーター	扉が開まるのが早すぎて、挟まらないかと不安になる		1
11号館前の段差	ちょっとした段差だが、何回もつまずいている人を見ている。	車椅子の人も不安に感じると思う。	1
14号館、向かって右側のエレベーター	左側のエレベーターと違って、中がとても狭く窮屈で、余裕をもって乗れないため、イヤな気持ちになる。		1
一階のフロア	節電のためか消灯しており、昼間でも暗い		1
大きな時計の横の階段	雨が降ると滑りやすい。授業前後は人通りが多く、すれ違いが怖い	他の階段にはある、点字ブロックがない	1
第一駐車場に行くまでの道	夜、一度歩いたことがあるが電気も少なくうす暗いと感じていた。また人通りも少ないので余計に怖いと感じる。	昼間は明るいですが、夜になると街灯がなく、道が見えなくなる。	9
バイク置き場に入るまでの道	バイク通学の人が駐輪場に行く為に通る道。スピードを出して走る人が多い為、衝突する事故が起きそうで不安を感じる。	駐輪場の入口近くにある坂にガードレールなどが無い為、危ない。	2
バイク置き場から裏に抜ける道	階段がボロい。学校が作ったものじゃないと思うが直してほしい	危ない	4
第2文化体育館下	ベンチや机がボロボロになっている。	たばこの吸い殻など、ゴミが多い。汚い	9
11号館裏にあるテニスコート後部のフェンスの裏	テニスボールを探しに入った際、スズメバチやマムシを目撃したので、恐かった。		1
バスターミナル前のモニュメント	昼は気にならないが、夜は青い光が照らされ、不気味で不安な気持ちになる		1

地域社会における「ものづくり」の可能性

「アール・ブリュット」概念の省察を通して

倉田 誠

1. 「アール・ブリュット」とは？

アール・ブリュット(Art Brut : 生き/なま)の芸術

「芸術的訓練や芸術家として受け入れた知識に汚されていない、古典芸術や流行のパターンを借りるのでない、創造性の源泉からほとぼしる真に自発的な表現」(ジャン・デュビュッフエ「文化的芸術よりも生の芸術を」展(1949年)パンフレット)
アール・ブリュット・コレクション：子供、未開人、囚人、精神障害者の「作品」

しかし、いつの間にか....

「障害を持つ者の芸術」？「アウトサイダー・アート」？「ボーダレス・アート」？

2. 淡路地域での調査から

(1) 淡路瓦産地での試み

産地の窮状と大量生産体制の揺らぎ→土窯の再築、瓦インテリア、工芸家との交流

(2) 特別擁護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」での試み

地域との交流・協力：「ふくろう工房」、「ふれあい祭」での作品展示

3. ボーダレス・アートミュージアム「NO・MA」(近江八幡)の取り組み

近江学園：信楽焼産地との交流による粘土造形→「アール・ブリュット」作家
移動展示から常設展示へ(2004)、障害を持つ者の作品/一般の作品の混合展示

4. 「ものづくり」を通じた交流の創出

アール・ブリュット概念への省察

広汎な対象を「アート」の俎上に載せる試み？/特異な「アート」の創設？

「ものづくり」(=「製造」「製作」「作業」「趣味」....etc)の可能性

地域社会の「分界線」を跨ぐ>「外部」と繋ぐ→外部者による調査=関与の意義

地域に根差した研究をめざして

神戸学院大学地域研究長田センター
ポストドクトラルフェロー 細淵 清貴

1. 地域での活動

- ①大正筋商店街「大縁日」への協働参加
 - ・ 学生が地域の子供を対象としたブースをプロデュースする
 - 前年度の活動をより洗練させ卒業研究へ昇華

- ②六間道商店街「潮汲み夏祭り」への協働参加
 - ・ 学生が「いましか踊連」を結成し、徳島県鳴門市のうずしお連・六間道商店街と協働して阿波踊りを披露
 - 男女衣装の統一や人数の増加など前年度の活動をよりグレードアップさせた

- ③地域人材支援センター主催「まちの文化祭」への協働参加
 - ・ 現3年次生が長田をテーマにゼミ活動を実施。その「学び」を地域へ向けて発信

2. ワークショップの実施

- ・ 第1回 (2011年7月14日)
講師：三谷俊之
内容：地域のミニコミ誌を作る—小学館『週刊ポスト』編集経験者が教える—
→ 『NAGATA のチカラ』を編集するためのノウハウを習得するために実施

- ・ 第2回 (2011年10月27日)
講師：松浦強氏
内容：映画の宣伝とは—効果的な宣伝ノウハウを教える—
→ 「まちの文化祭」での展示、『NAGATA のチカラ』の編集のため宣伝方法やキャッチコピーの重要性などを学ぶ

- ・ 第3回 (2011年12月6日)
講師：磯部久美氏
内容：放射線を測る—身近にある放射能の基礎知識を知る—
→ 防災・環境分野の今後の取り組みを見据えて、放射能の基礎知識を学ぶ

3. 新長田地区を知る

①1995年以前

- ・古くから重工業やマッチ産業、ゴム産業、ケミカルシューズ産業などの産業都市として発達。
- ・産業の興隆により、内外問わず様々な地域から労働者を呼び込み、人口が増加。
→ピーク時には、214,345人が長田区に居住
- ・工場労働者やその家族を背景に商店街も発展。
→地域経済を動かす存在
- ・雑多なグローバルなコミュニティーをもつ産業都市兼ベッドタウン。

②1995年以降

- ・神戸市全体の人口は増加しているが長田区の人口は減少の一途をたどっている
 - ・人口に対する高齢者の割合が増加
- 1970年代からのインナーシティ問題が包括されている
- ・都市再開発事業によって街が新しく再編された。
- 新住民の流入、商店街の衰退
⇒結果、街全体の活力が低下

4. 次年度に向けて

今年度は、新長田地区の現状を考察した上で、地域活性化イベントに参加すること、基礎知識を習得することに重点を置いた。そうした活動の中から、地域で活動するだけでは「地域力の再発見」という部分に結びつかないのではないかという疑問が生まれた。次年度は、学生の「学び」・長田センターの活動にどのようにして地域を巻き込むのかという課題に取り組み、新しいプロジェクトを実施したいと考えている。

2011年度地域研究明石エリア活動報告

報告：人文学部人文学科 寺嶋秀明

1、明石エリアの概要

事業名：「自然と歴史・文化」再発見チームの立ち上げ

本年度の目標

- ・地域の「資源」の現状調査
- ・「資源」を利用した協働を行う連携先の模索と関係の構築
- ・地域と大学（教員、学生）の協働の試行

明石エリアの構成

1、各種の市民団体との協働により、伝統的民俗文化、伝統的地域産業等をテーマに、地域資源の再発見チームの立ち上げ

－4つの事業が活動

2、文化生活の拠点づくり、町づくり再発見チームの立ち上げ

－2つの事業が活動

2、各事業の報告

1. 1 高人口密度地域における理想的な海岸環境モデルの創出

担当：鹿島基彦 矢嶋 巖 大塚成昭

プロジェクト目標：須磨海浜水族園と協働した学生による海岸と街並の調査

地域に合う点・合わない点を抽出（1、2年目）

地域に合った理想的な海岸風景を提案（3年目）

今年度の成果

①人工海岸（砂浜）造成後の砂の状況の把握

砂浜の造成時期が異なる⇒残留砂から造成後の変遷が同時に見える

・今後の課題

海岸調査の継続（砂・植物）

海岸の造成時期と埋設土砂の情報の入手

海岸沿いの街並の調査開始

②明石市大蔵海岸整備に関する研究

大蔵海岸埋立反対運動の資料を学生がデータベース化、作業中
大蔵海岸整備事業、海岸利用のあり方、進出商業施設、在来地区の小売業といった観点から、学生が研究、報告作成

・今後の課題

学生による大蔵海岸整備に関する研究報告の公表（報告書作成、関係先への送付）
大蔵海岸埋立反対運動資料のデータベース構築
明石市との連携模索
大蔵海岸と後背地である大蔵地区における自然・人文・社会環境の情報収集の継続
→本学の「ホームフィールド」として、今後も映像記録、聞き取りを実施：情報蓄積

1. 2 都市郊外地域における環境・社会が有する価値についての研究

担当：矢嶋 巖 鹿島基彦 前田拓也 大塚成昭

①都市近郊農村の生活環境についての研究

学生と地域との協働の模索

- ・学生の東播磨地域ビジョン委員会会合参加、意見交換
- ・学生による聞き取り調査：生活環境について
加古川市西神吉町鼎地区（4町内会） 農業団体長を中心とした4町内会住民を対象
- ・学生の溜池維持行事（池干し）参与観察、聞き取り調査
- ・学生の加古川西地区溜池連絡協議会参加、意見交換
- ・学生による鼎地区農業団体の農作業体験の試行
- ・研究成果の地域への公開：学生による中間報告
東播磨流域文化協議会 第5回流域文化サロン「次代につなぐ水辺環境」

研究成果

研究成果の地域への公開：学生による中間報告発表実施、報告書作成
地域団体との関係構築：鼎地区の農業団体、東播磨県民局
研究分野が異なる教員の協働

課題

地域が求める、学生と地域の協働作業の実施

農作業体験、環境保全活動・行事参加、自然・人文・社会的価値の再発見（収集・整理・還元）など

新たな協働先の模索：市役所など

②明石市のアカミミガメ増加問題（外来種問題）

神戸市立須磨海浜水族園と協働して、学生による明石市のカメ捕獲調査

今後の課題

ため池のカメ調査の継続

陸上環境（人工・天然）との関連調査
祭りのカメ釣り等の放流原因の調査

1. 3 越劇の理解と普及を通して新たな地域文化を創出するための研究

担当：中山 文、伊藤 茂

組織作り

- ① 孫文記念館（移情閣友の会）との連携
- ② 「移情閣越劇同好会」の発足

→本学非常勤講師、他大学大学院生など6名の参加

第1回例会

10月10日 孫文記念館 月見の会で、宣伝パネル（桑島先生作）の展示。
中山が同好会発足の経緯と趣旨、具体的活動方針を説明。

第2回例会

11月20日（日） 14:00～16:00 114D 参加者5名

「越劇の美しさ－梁山伯と祝英台」（2005年6月本学上演）DVDを鑑賞

第3回例会

12月24日（日） 14:00～16:00 142A 第3回越劇友の会 参加者8名

「舞台姉妹」DVD鑑賞 越劇史について、中山の解説。

反省

- ① 組織作りに難航
例会が自転車操業
- ② メンバーの意思疎通が不十分

次年度の目標

- ① 最終年度目標は、初心者向け『越劇入門』（本邦初）の刊行
- ② 次年度はそれに向けて、目次作成と原稿集め。それに沿った講演会を企画。
- ③ 9月に浙江省杭州で「楊小青作品シンポジウム」が行われる。越劇の優秀作が
一挙上演。それに合わせて、越劇同好会の観劇ツアーが組めないか。

1. 4 明石大蔵町を中心とした地元との共同作業による町の文化資源の再発見と活用、 および未来への継承

担当：寺嶋秀明、五十嵐真子、矢嶋 巖

2011年度の活動内容

①明石大蔵町の文化資源の再発見

・大蔵八幡町の酒蔵（11/6）

・「明石かいきょう塾」の歴史発見イベント（11/20）⇒学生による聞き取り、映像記録作成

②明石大蔵町の伝統行事での研究と協働

10月8～9日 大蔵本町 稲爪神社の秋祭り

- ・ 参与観察による調査、聞き取り調査
- ・ 映像記録の作成
- ・ 学生による献灯やたい・女衆御輿参加

③調査成果の地域への公開

年末から年始にかけて稲爪神社境内にて写真展を実施

本年度の成果

- ・ 地域の団体、施設との関係の構築 稲爪神社、明石かいきょう塾
- ・ 大蔵地域の文化資源の記録 映像（写真・動画）による記録の作成
- ・ 成果の地域への公開 写真展、報告書

次年度への課題

- ・ イベント以外の場面での調査
- ・ 地域研究センター主体のイベントの提案・実施
- ・ 地域からの評価の調査

2. 1 アートによる地域活性化と魅力創造の実践的研究

担当：桑島紳二、橋本啓子

2011年度のイベント

- 11/5 研究講演会「アートで淡路島を耕す」やまぐちくにこ氏
- 11/17 研究講演会「現代アートの楽しみ方」岸野裕人氏
- 11/23 黒板ワークショップ@アワビ 遠藤幹子氏
- 12/4 ワークショップ「ミニ気球を作ろう」岡本純一氏
- 12/17 研究講演会「ワークショップの理論」藤吉祐子氏
- 12/17 ワークショップ
「トッピング・Tシャツ・パーティー」中村潤氏

2011年度のアートイベント

■ 9月

六甲ミーツアート（六甲山）

■ 10月

- 縄文まつり（淡路島 旧仁井小学校）
- 歌とピクニック IN TANBA（丹波市）
- 神戸ビエンナーレ
- 横浜トリエンナーレ

■ 11月

- 龍野アートプロジェクト 2011（龍野市）
- AMA展（尼崎市）

■12月

「世界制作の方法」展、「アンリ・サラ」展（国立国際美術館）

2011年度の淡路島での聞き取り調査

■造形作家

遊木真帆氏（工房風南）、尾崎泰弘氏（ナフシャ）、前川和昭氏（ギャラリー番屋）

■写真家

茂木綾子氏（ノマド村）

■陶芸家

西村昌晃氏（樂久登釜）、宇田賀織絵氏（うつわ織）

■ソーシャル・アート

岡本純一氏（淡路島美術大学）

■アート系NPO

やまぐちくまこ氏（淡路島アートセンター）

2012年度の活動予定

2011年度の調査結果を踏まえアートプロジェクトのプランニング&制作

■方向性

アーティストとジョイント → 岡本純一氏

アート系NPOとジョイント → 淡路島アートセンター

※絵画や彫刻といった伝統的芸術ではなく、ソーシャル・アートの内容的なものを企画したい。

2. 2 地域における体力づくりと生涯にわたる健康学習に関する研究

担当：今西幸蔵、水谷 勇

研究目的

1. 地域住民の体力低下の要因分析と健康教育に関する体系的な研究のプレビュー
2. 生涯にわたる健康教育と子どもの体力向上に関する実証的研究
3. 実践的な健康教育プログラムの研究

2011年度 活動内容と成果

資料の収集（国立教育政策研究所及び同研究所社会教育

- ①実践研究センター、福岡県立社会教育総合センター等）
- ② 研究チームの組織（本学教員、神戸市立有瀬小学校教員、研究協力医師ほか）
- ③ 調査用紙の検討（原案の作成）
- ④ 第1回調査研究フォーラム（3月27日予定、於舞子ビラ）

講師 立田慶裕 (国立教育政策研究所総括研究員) 「地域における健康学習とは」

2012年度 研究計画

- 4月 研究チームによる研究会の開催
- 5月 プレ調査の実施 (有瀬小学校)
- 6月 プレ調査の結果の集約と分析
- 7月 研究チームによる研究会の開催
- 8月 本調査の調査用紙の作成
- 9月 本調査の実施 (小学校、中学校、高等学校の児童・生徒、保護者及び教員)
- 10月 本調査の結果の集約と分析
- 11月 同 上
- 12月 研究チームによる研究会の開催
- 1月 同 上
- 2月 報告書執筆分担者の決定と打ち合わせ
- 3月 報告書の執筆

プレ調査の内容

- 1. 調査対象
 - ① 小学生4年生 40サンプル
 - ② 保護者 40サンプル
 - ③ 教員 40サンプル
- 2. 調査項目
 - a. 行動面
健康 (日常の生活習慣、就寝と起床、食事運動 (運動時間、運動内容))
 - ~ b. 内面
学校生活満足度、自立性、自己意識、健康意識、運動意識
- 3. 調査方法 留め置き法

3、明石エリア全体としての総括

- ・各事業ごとに連携先との関係構築が行われた。
- ・地域と大学との協働についての試行を行った。
- ・各事業の方向性と目標が定まった。

4、今後の課題

- ・各事業間、教員間での協働の強化
- ・地域の反応に関する調査不足
- ・成果の還元方法についての模索
- ・連携・協働の持続の可能性

→明石エリアとしての最終到達点をどのように設定するのか？



神戸学院大学
地域研究センター 有瀬センター
- 地域住民への直接的・間接的心理支援
のための交流拠点づくり -

神戸学院大学

プロジェクトの全体的目的

・問題

- 現在、地域社会は
若年層の流出や**少子高齢化**の進行により、
活力が衰退し、生きがいをもてなくなり、
それぞれのライフステージで**困難さ**を抱えている。

・目的

- 有瀬センターでは、心理学の専門性を活かして、
①何らかの**心理的問題**を抱える方々の**直接的支援**、
②心理的問題を抱える方々の**支援者の育成**、
③**安全・安心な環境**づくり、を目指す。

プロジェクトの3つの構造

地域への 直接的心理支援

・何らかの心理的問題を抱えた
地域の方へ心理的支援を提供。

地域への 間接的心理支援

・心理的問題を抱えた方々の
心理的支援者を育成。

地域への安全・ 安心の心理支援

・大学と地域の人々が安心し、
安全に暮らせるように支援。

地域への直接的心理支援

「母と子のアートで遊ぼう」の実践研究

神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」の発展

「子育てサロン」の地域展開

「地域住民のためのライフ・デザイン」セミナーの開設

地域女性のエイジングを支援するための問題提起
フォーラムの開設

「保護者教室-子どもの成長と大人の役割-」の開設

地域への間接的心理支援

「地域における「児童虐待ストップ！」のための実践研究

通常学級におけるユニバーサルデザインの情報共有

心理臨床家の育成のための障害児関連施設での研修支援
の開設

「地域で支える認知症」フォーラム

電話相談技術のトレーニング研修

地域子ども会活動における専門的グループワーカー養成事業

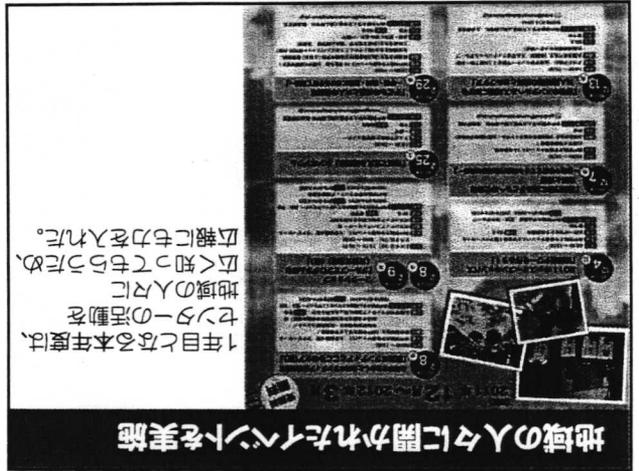
地域への安全・安心の心理支援

心理学を生かした地域ボランティア養成講座
「震災ボランティアのこころの傷-予防と対応-」

対人援助職のための
ストレスマネジメント・セルフケア研修

神戸学院大学大学内及び大学周辺地域における
安全・安心向上のための実践研究

若者の非行防止・更生のための支援協働事業



1年目となる本年度は、
 センターの活動を
 地域の人々に
 広く知ってもらうため、
 広報にも力を入れた。

地域の人々に開かれたイベントを実施

地域への 直接的心理支援

活動報告

地域への直接的心理支援

「母と子のアートで遊ぼう」の実践研究

神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」の発展

「子育てサロン」の地域展開

「地域住民のためのライフ・デザイン」セミナーの開設

地域女性のエイジングを支援するための問題提起
フォーラムの開設

「保護者教室-子どもの成長と大人の役割-」の開設

地域への直接的心理支援

「母と子のアートで遊ぼう」の実践研究

神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」の発展

「子育てサロン」の地域展開

「地域住民のためのライフ・デザイン」セミナーの開設

地域女性のエイジングを支援するための問題提起
フォーラムの開設

「保護者教室-子どもの成長と大人の役割-」の開設

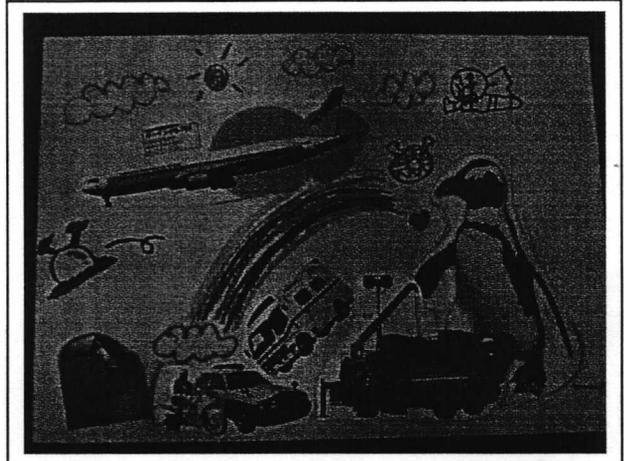
「母と子のアートで遊ぼう」の実践研究

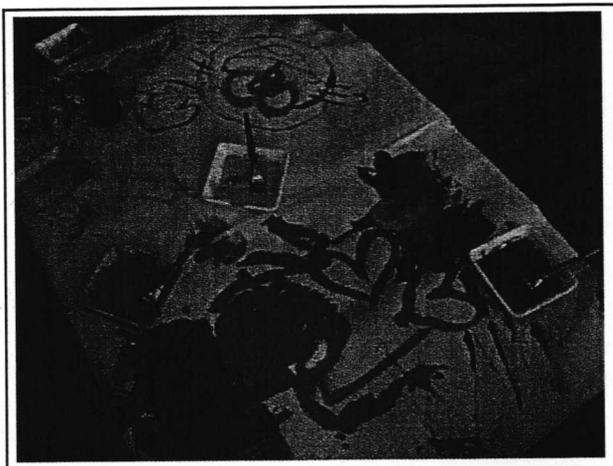
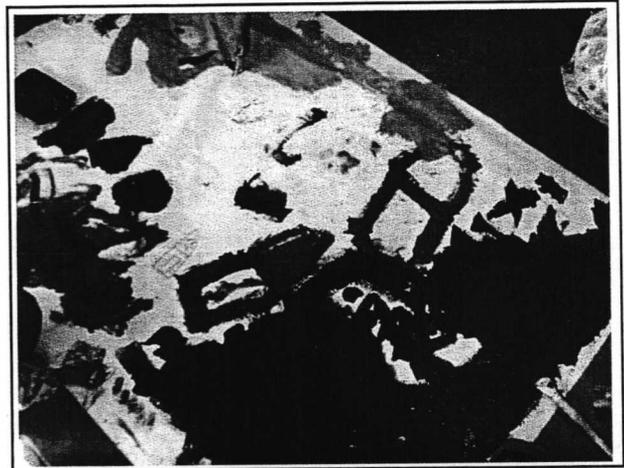
担当研究者：山上榮子

活動目的

「母と子のアートで遊ぼう」は、
地域への子育て支援のために組まれたプログラムの
ひとつである。

- ①子どもがアート素材を用いて自己表現する
- ②母と子がアート素材を介して交流する
- ③母親同士、子ども同士の交流をアートを通して行う
- ④アート制作後、母親たちがその日の感想や日頃の
子育ての諸問題を共有する





日時	活動内容
2011年 7月12日	近隣の子が集い、アートを用いての活動を行った
2011年10月19日	「青空の下、アートで遊ぼう」のタイトルで、母子13組27名が参加し、アートを通しての自己表現でもある遊びを母子ともに楽しんだ。
2011年11月11日	地域の母子5組、10名が参加してアート材料を用いて遊び楽しんだ
2011年12月 9日	地域の母子12組(母親12人、子ども14人)がセンターのプレイルームに集まり、「ほぐし体操、アートで遊ぶ、シェアリングとクールダウン」の1時間のプログラムを楽しんだ。
2012年1月13日	地域の母子8組(母親8人、子ども9人)がセンターのプレイルームに集まり、「ほぐし体操、アートで遊ぶ、シェアリングとクールダウン」の1時間のプログラムを楽しんだ。

「母と子のアートで遊ぼう」DVDの作成

毎月1回アート素材を用いた遊びの場で、子供たちは生き生きと自己表現し、母親とかかわり、他の子どもたちとかかわり、担当院生とかかわって成長していく。

他の母子との交流や子育ての問題も共有されており、これらをDVDに記録することは、臨床心理学系院生の学びもより充実させる。

参加されている保護者にDVDを提供することで、子どもの成長を家族で振り返る機会となる。

今月末に完成予定

地域への直接的心理支援

「母と子のアートで遊ぼう」の実践研究

神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」の発展

「子育てサロン」の地域展開

「地域住民のためのライフ・デザイン」セミナーの開設

地域女性のエイジングを支援するための問題提起
フォーラムの開設

「保護者教室-子どもの成長と大人の役割-」の開設

神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」の発展

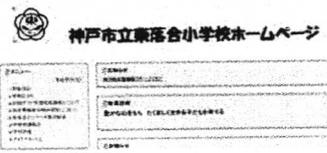
活動目的

担当研究者：道城裕貴、小山 正

本学の授業科目インターンシップⅢ・Ⅳ「特別支援教育における教員補助Ⅰ・Ⅱ」において、参加学生のスーパーバイズ、及び巡回相談に役立てるために、参加学生と共に「支援マニュアル」を作成する。

支援マニュアルは、支援時の服装や礼儀など基本的な事項から、特別な教育的ニーズがある子どもたちの特徴やそれに応じた対応など、実体験をもとにまとめる

神戸市立東落合小学校への巡回相談



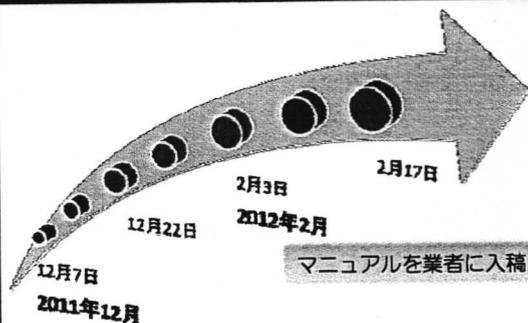
第一回巡回相談

日時: 2011年10月20日(木) 8:00~14:00
活動: 2~5年生の各学年2クラスずつ、授業参観。井上祥子校長先生や担任教員らと面談。

第二回巡回相談

日時: 2012年2月2日(木) 8:00~14:00
活動: 1~4年生の各学年2クラスずつ、授業参観。井上祥子校長先生や担任教員らと面談。

支援マニュアルの作成



完成

インターンシップ受講者が主体となりマニュアルの作成

完成した支援マニュアル



本年度作成したマニュアルは、来年度以降の研究プロジェクトに活用していく予定である

地域への直接的心理支援

「母と子のアートで遊ぼう」の実践研究

神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」の発展

「子育てサロン」の地域展開

「地域住民のためのライフ・デザイン」セミナーの開設

地域女性のエイジングを支援するための問題提起フォーラムの開設

「保護者教室-子どもの成長と大人の役割-」の開設

「子育てサロン」の地域展開

活動目的

担当研究者：小石寛文

「子育てサロン」は、地域への子育て支援のために組まれたプログラムのひとつである。

本プロジェクトでは、赤ちゃん連れのお母さんと大学生・院生が交流し、またお母さん同士も交流を行い、情報を共有する。

「子育てサロン」の年間予定

月	日	集団活動の内容
7月	6日(水)	つくってあそぼう!
	13日(水)	からだをうごかそう!
	20日(水)	音であそぼう♪
10月	5日(水)	からだをうごかそう!
	12日(水)	音であそぼう♪
	19日(水)	絵本の世界を楽しもう!
	26日(水)	つくってあそぼう!
11月	2日(水)	からだをうごかそう!
	9日(水)	音であそぼう♪
	16日(水)	絵本の世界を楽しもう!
	30日(水)	つくってあそぼう!
12月	7日(水)	からだをうごかそう!
	14日(水)	音であそぼう♪
	21日(水)	絵本の世界を楽しもう!

活動記録						
回	月	日	組数	子ども数	保護者数	活動内容
1	5月	11日	8	10	9	絵本の世界を楽しもう!
2	5月	18日	8	12	9	つくってあそぼう!
3	5月	25日	12	17	13	からだをうごかそう!
4	6月	1日	11	15	12	音であそぼう♪
5	6月	8日	7	11	8	つくってあそぼう!
6	6月	15日	9	10	10	からだをうごかそう!
7	6月	22日	17	21	19	音であそぼう♪
8	6月	29日	8	10	9	絵本の世界を楽しもう!
9	7月	6日	11	12	12	つくってあそぼう!
10	7月	13日	13	17	14	からだをうごかそう!
11	7月	20日	11	15	12	つくってあそぼう!
12	10月	5日	4	5	4	からだをうごかそう!
13	10月	12日	7	8	7	音であそぼう♪
14	10月	19日	10	11	10	絵本の世界を楽しもう!
15	10月	26日	10	11	10	つくってあそぼう!
16	11月	2日	11	12	11	からだをうごかそう!
17	11月	9日	10	14	10	音であそぼう♪
18	11月	16日	14	18	14	絵本の世界を楽しもう!
19	11月	30日	8	12	8	つくってあそぼう!
20	12月	7日	11	14	11	からだをうごかそう!
21	12月	14日	10	13	10	音であそぼう♪
22	12月	21日	7	9	7	絵本の世界を楽しもう!

1月~3月まで延長して実施することに決定

子育てサロン予定表		
月	日	活動内容
1月	18日	音であそぼう♪
2月	1日	からだをうごかそう!
	8日	つくってあそぼう!
	29日	音であそぼう♪
3月	7日	つくってあそぼう! DVDを保護者に配布



「子育てサロン」DVD作成

DVDを少しだけ紹介

地域への直接的心理支援

- 「母と子のアートで遊ぼう」の実験研究
- 神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」の発展
- 「子育てサロン」の地域展開
- 「地域住民のためのライフ・デザイン」セミナーの開設**
- 地域女性のエイジングを支援するための問題提起フォーラムの開設
- 「保護者教室-子どもの成長と大人の役割-」の開設

ライフデザインセミナー

活動目的 担当研究者：土井晶子

地域住民が、自分の内なるイニシアティブに気づき、各自がそれぞれの場で今後リーダーシップを発揮していくための機会を提供する。

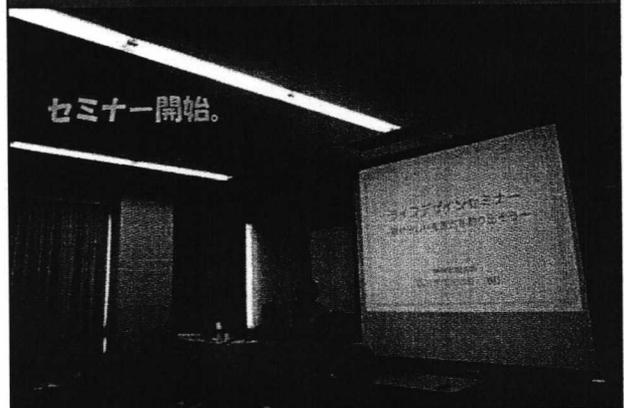
外側に答えを求めめるのではなく、自分のすでに持っている豊かさや強み、資源に着目するポジティブ心理学およびフォーカシングをベースに、単なる「仕事」に留まらない、「ライフキャリア」という広義の視点から、新しいワークショップの開発と実施に取り組む。

ライフデザインセミナーの実施

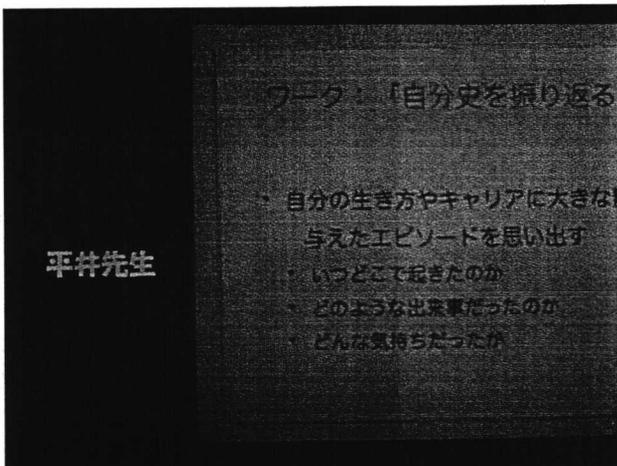
日時：10月15日・16日、10：00～18：00
 講師：平井達也 先生（立命館アジア太平洋大学）
 土井晶子（本学教員）の2名
 参加者：一般から募集した27名。

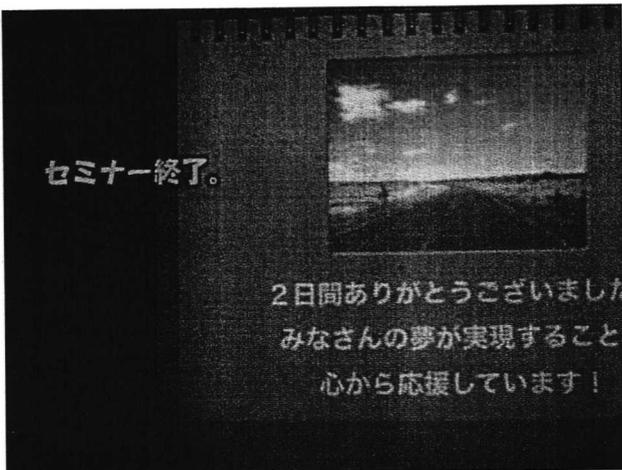
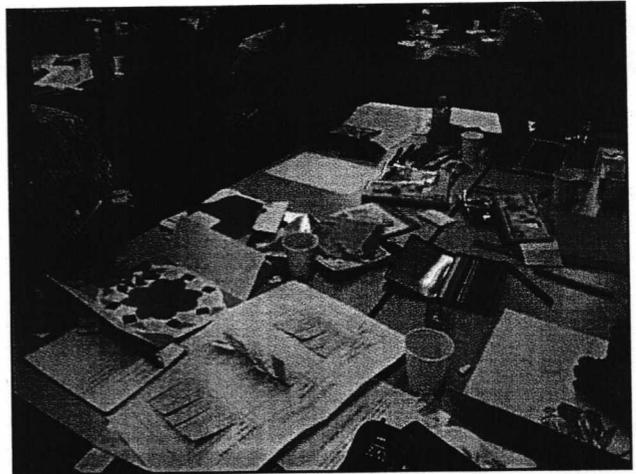
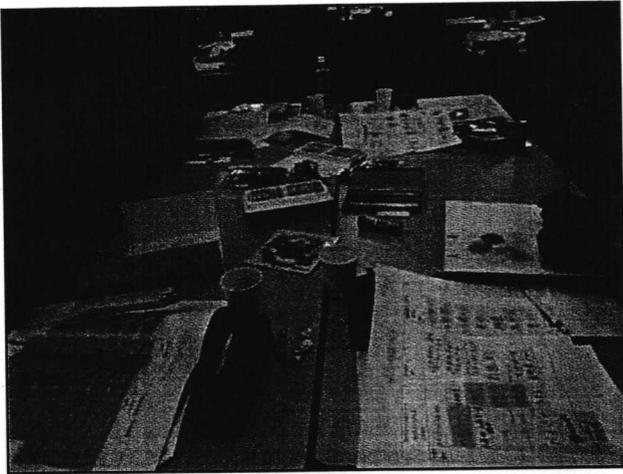
自分の強みを振りかえる・気づくための心理テスト、グループワーク、フォーカシングを統合した新しい形態のワークショップを実施。地域住民が自分の内なるイニシアティブに気づき各自がそれぞれの場で、今後リーダーシップを発揮できるための素地作りの機会を提供した。

ライフデザインセミナーの様子



セミナー開始。





ライフデザインセミナーの事後アンケート

終了後の満足度評価

回収したアンケート25名のうち

22名から10段階評価で

「10」（=非常に満足）との高い評価を得た。

地域への直接的心理支援

「母と子のアートで遊ぼう」の実践研究

神戸市「通常学級におけるLD等への特別支援事業」の発展

「子育てサロン」の地域展開

「地域住民のためのライフ・デザイン」セミナーの開設

地域女性のエイジングを支援するための問題提起
フォーラムの開設

「保護者教室-子どもの成長と大人の役割-」の開設

地域女性のエイジングを支援するための問題提起

担当研究者：前田志壽代

活動目的

「人間は生涯にわたって発達し、やがて訪れる『老い』をどのように考え、受けとめるのか」という全ての人にとって古くて新しい課題をとりあげる。

基本情報としての女性のからだところの成熟を考え、しかる後に否定的な『老い』にとらわれず、あこがれの『老い』について共有する。

性別・年齢にかかわらず、一緒に考えてみる機会を提供することを目的とする。

キッズオープンキャンパス当日

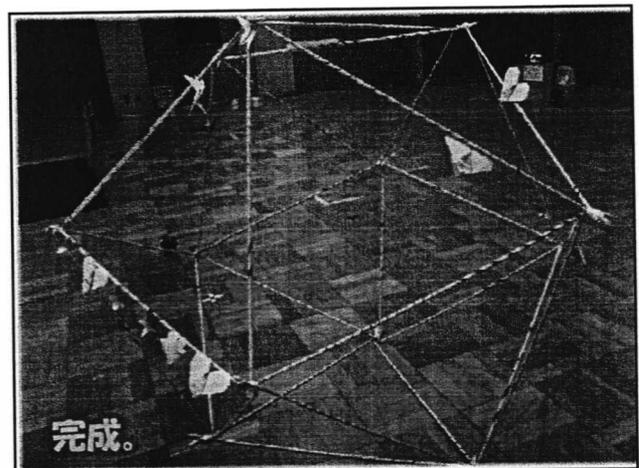
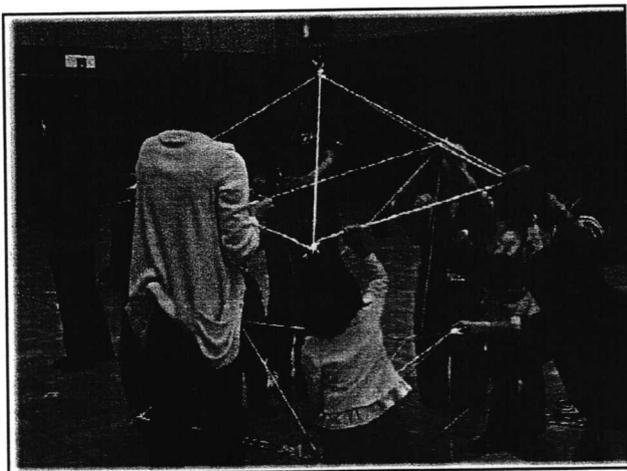
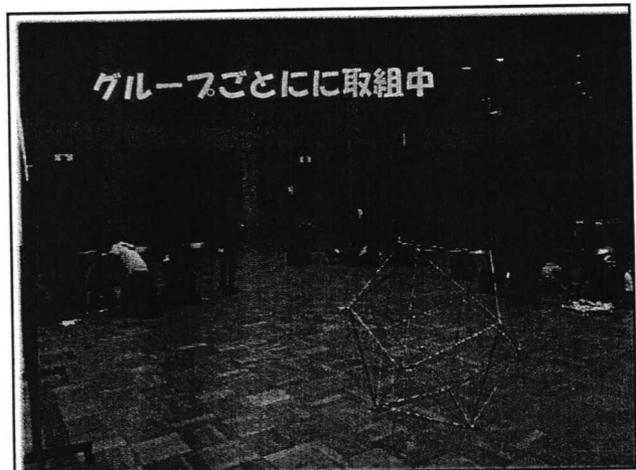
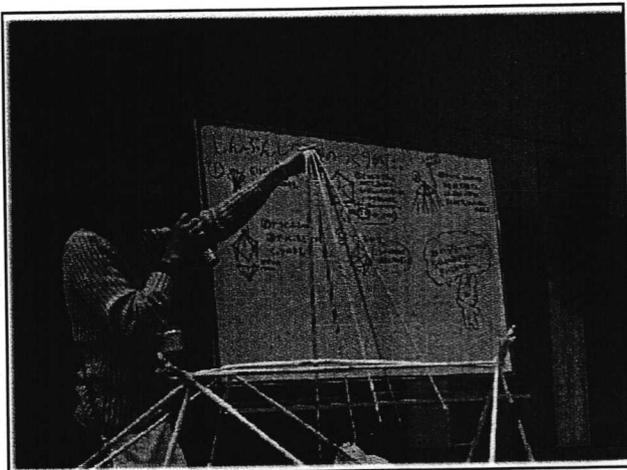
日時：2011年12月4日（日） 10:30～12:00

会場：大学会館4F（マナビーホール）

タイトル：新聞紙タワーを作ろう！

参加者：子ども13人、保護者9人

- ◆あらかじめ作っておいた新聞紙の棒30本を使って、正二十面体を制作した。
- ◆完成した作品に折り紙や画用紙で飾り付け



**「子どもの成長と大人の役割Ⅲ
—学校・地域・家庭における子育て支援—**

◆フォーラムについて

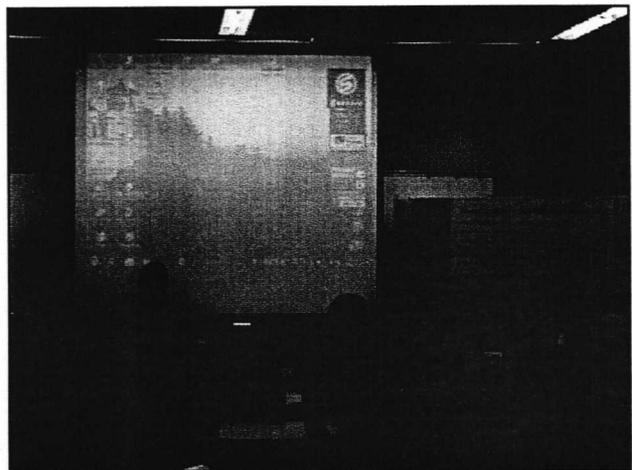
- 公立中学校の現役養護教諭
- 地域で親子支援を展開するNPOの代表者
- 家庭に出向き、母親と乳幼児を直接支援する研究実践を行っている研究者

を招き、
現場の生の声を語ってもらう。

**「子どもの成長と大人の役割Ⅲ
—学校・地域・家庭における子育て支援—**

日時: 2月29日(水)
場所: 有瀬キャンパス
14号館6階大実1

司会: 難波 愛
挨拶: 小石 寛文
話題提供: 横溝 妙子 先生
馬見塚 珠生 先生
三林 真弓 先生
指定討論: 日高 正宏



地域への 間接的心理支援

活動報告

地域への間接的心理支援

「地域における「児童虐待ストップ！」のための実践研究

通常学級におけるユニバーサルデザインの情報共有

心理臨床家の育成のための障害児関連施設での研修支援の開設

「地域で支える認知症」フォーラム

電話相談技術のトレーニング研修

地域子ども会活動における専門的グループワーカー養成事業

地域への間接的心理支援

「地域における「児童虐待ストップ！」のための実践研究

通常学級におけるユニバーサルデザインの情報共有

心理臨床家の育成のための障害児関連施設での研修支援の開設

「地域で支える認知症」フォーラム

電話相談技術のトレーニング研修

地域子ども会活動における専門的グループワーカー養成事業

地域における「児童虐待ストップ！」のための実践研究

活動目的

担当研究者：前田志壽代

- 「児童虐待」は現代社会の重大な問題の一つである。臨床心理学系大学院の学びでも重要な位置を占める。
- 本学大学院臨床心理学系修士1回生および2回生が、「児童虐待」について、広く情報を収集、考察、地域における防止のための方策を創出、実践する。そのための研究会活動を開始する。

2011年度は会員による「児童虐待」に関する主体的情報収集と分析を行う。

活動状況

- 現在、3回の研究会を実施した。

- 今後も研究会を継続し、「児童虐待」について広く情報を収集し、地域における防止のための方策を考察する。

- 神戸市こども家庭センター所の見学を行うことを予定している。

地域への間接的心理支援

「地域における「児童虐待ストップ！」のための実践研究

通常学級におけるユニバーサルデザインの情報共有

心理臨床家の育成のための障害児関連施設での研修支援の開設

「地域で支える認知症」フォーラム

電話相談技術のトレーニング研修

地域子ども会活動における専門的グループワーカー養成事業

通常学級におけるユニバーサルデザインの情報共有

活動目的 担当研究者：道城裕貴、大日方重利

ユニバーサルデザイン=どの子どもも分かりやすい授業づくり

明石市の特別支援教育巡回指導員を務める中で、現場の先生方に、多様な子ども達がいる通常学級を運営する手だてについてお話する機会も多くあり、効果的な支援方法を情報共有できる機会があればと考えた。

具体的には、神戸市及び明石市を対象にユニバーサルデザインに関する研究会を開催し、通常学級において有効な支援方法や学校内でのコンサルテーション等について情報共有を行う。

ユニバーサルデザインの観察

7月11日 14日	9月9日 12日 14日	10月4日 11日 17日 25日	12月9日 12日
--------------	--------------------	----------------------------	--------------

明石市の特別支援教育巡回相談において、明石市内の幼・小中学校に出向き、「通常学級におけるユニバーサルデザイン」の具体例の観察を実施している。

通常学級における特別な教育的ニーズがある子ども達への支援

日：2012年3月3日(土) 午後1:30~4:00
場：明石市立明石養護学校 体育館
〒674-0001 明石市大久野町大塚2752番地(40)

主 催：井原 隆三 (神戸学院大)
道城 裕貴 (神戸学院大)

目 的：「通常学級における特別な教育的ニーズがある子ども達への支援」をテーマとして、神戸市及び明石市を対象に、明石市内の学校園の教員を対象とした研究会を実施した。研究会の目的は、現場の先生方に、多様な子ども達がいる通常学級を運営する手だてについてお話する機会も多くあり、効果的な支援方法を情報共有できる機会があればと考えた。

神戸学院大学地域研究センター
〒674-0001 明石市大久野町大塚2752番地(40)
TEL: 078-918-5925

研究会活動

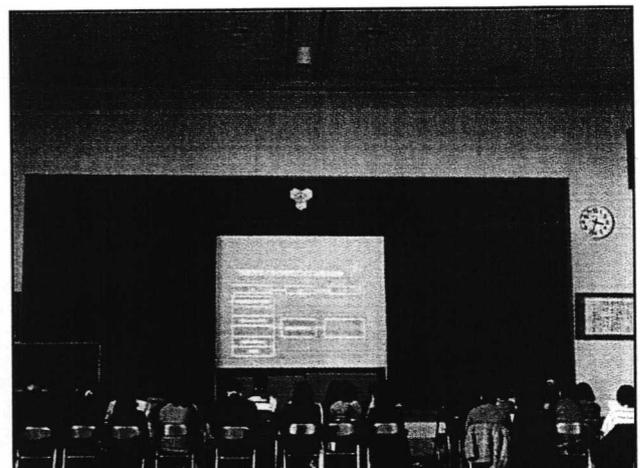
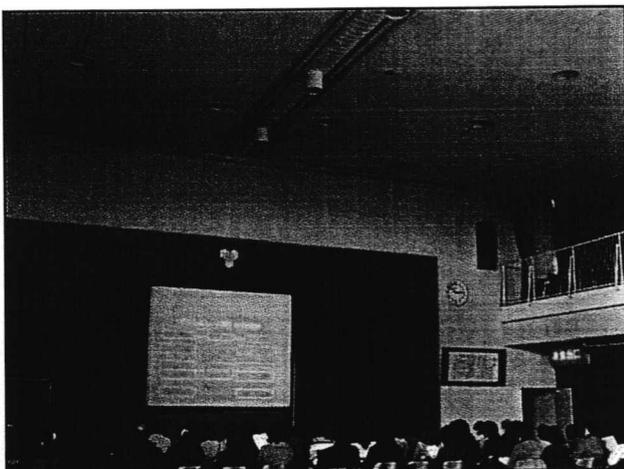
「明石の会」という明石市内の研究会(明石養護学校主催)と共催という形で、

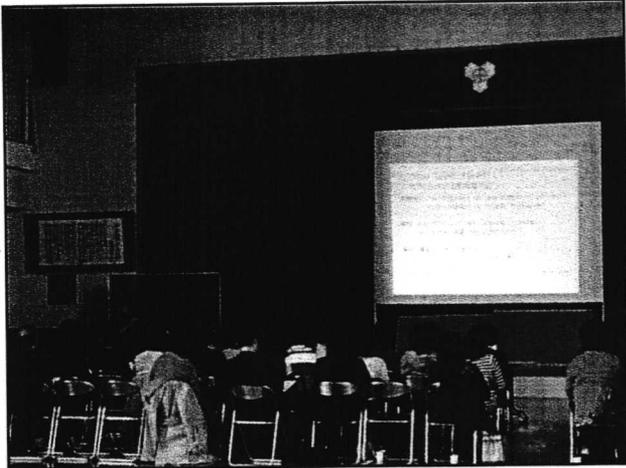
3月3日(土)に明石市内の学校園の教員を対象とした研究会を実施した。

36名
が参加



研究会の様子





地域への間接的心理支援

- 地域における「児童虐待ストップ!」のための実践研究
- 通常学級におけるユニバーサルデザインの情報共有
- **心理臨床家の育成のための障害児関連施設での研修支援の開設**
- 「地域で支える認知症」フォーラム
- 電話相談技術のトレーニング研修
- 地域子ども会活動における専門的グループワーカー養成事業

**心理臨床家の育成のための
障害児関連施設での研修支援の開設**

担当研究者：石崎淳一

[日時] 2011年10月28日 16:45～18:15

[場所] 神戸学院大学14号館6階大実験実習室2

[連携相手先] 社団法人クルレ

[活動内容]

クルレでの発達障害児に対する心理支援について、クルレ代表の赤堀富子氏に概略を講義していただきその後、大学院生、学生（参加者、計8人）に対して美術アイテムの創作などを体験してもらい、最後に自閉性障害児などへの関わり方等について全体で議論した。

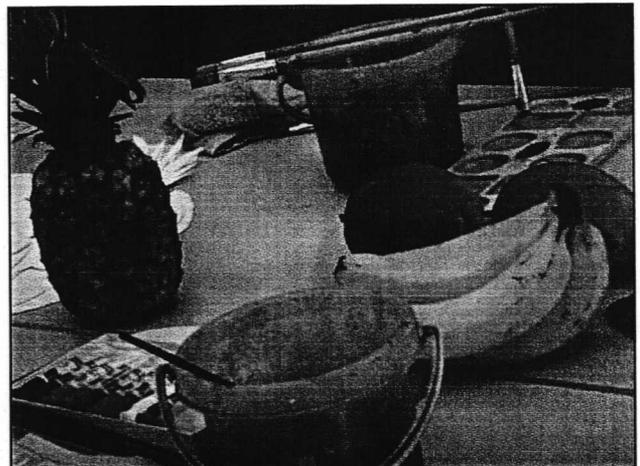
**心理臨床家の育成のための
障害児関連施設での研修支援の開設**

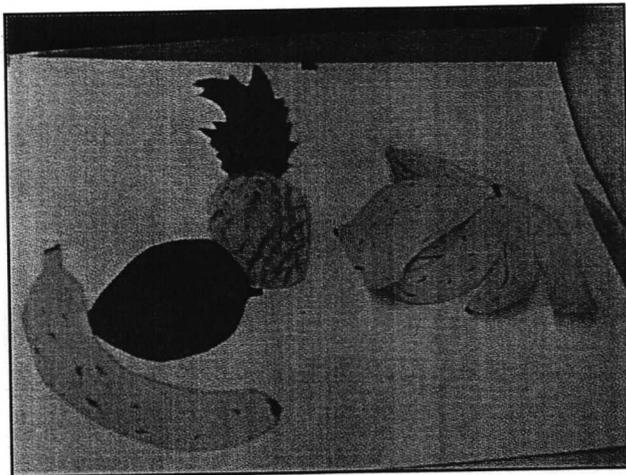
社団法人クルレ



<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~kurure/>

クルレでの創作活動の様子





地域への間接的心理支援

- 地域における「児童虐待ストップ！」のための実践研究
- 通常学級におけるユニバーサルデザインの情報共有
- 心理臨床家の育成のための障害児関連施設での研修支援の開設
- 「地域で支える認知症」フォーラム
- 電話相談技術のトレーニング研修
- 地域子ども会活動における専門的グループワーカー養成事業

「地域で支える認知症」フォーラム

担当研究者：長谷川千洋、博野信次、
小久保香江、清水寛之

活動目的

「認知症に対する地域での取り組み」というテーマのもと、神戸学院大学が主宰し、兵庫県が後援するシンポジウムを開催した。

今年度は、地域を大学周辺の明石市に限定しシンポジウムを開催する。

来年度からは、神戸市中央部や加古川など神戸西の地域へと拡大する。

2011年度 フロンティア地域研究事業
シンポジウム 地域で支える認知症

2011年3月25日(土)
開場13時30分 開演14時00分

第1部 シンポジウム 13:30~15:15
司会 長谷川千洋(神戸学院大学)
基調講演 博野信次(神戸学院大学)
基調講演 三好千恵(神戸学院大学)
基調講演 博野信次(神戸学院大学)
基調講演 三好千恵(神戸学院大学)
基調講演 博野信次(神戸学院大学)
基調講演 三好千恵(神戸学院大学)

第2部 分科会 15:45~16:30
認知症の理解 認知症を学ぶ
認知症の支援 認知症への心理的支援
認知症のリハビリテーション

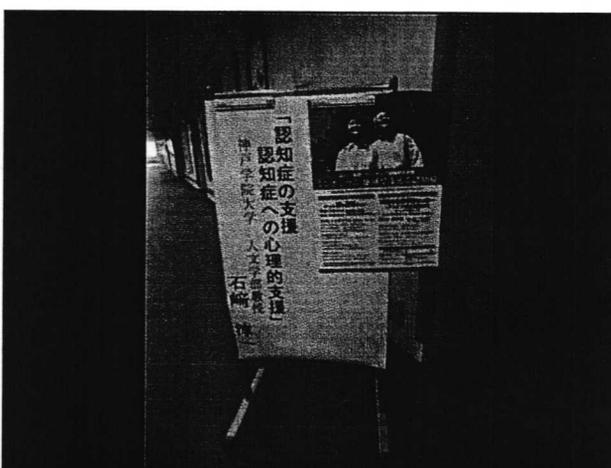
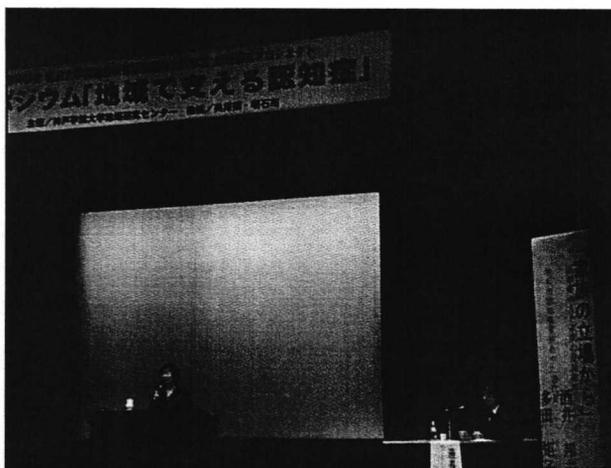
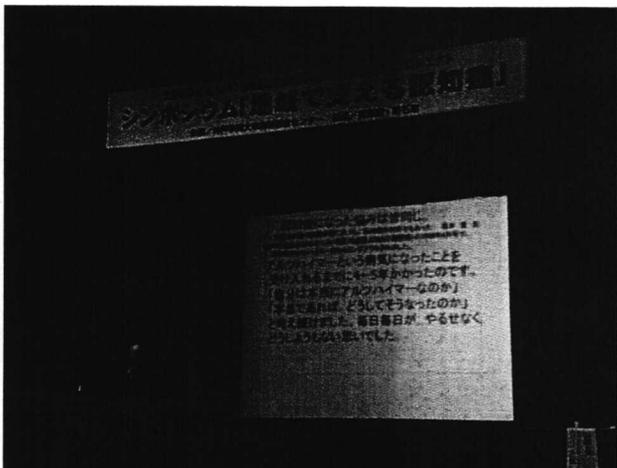
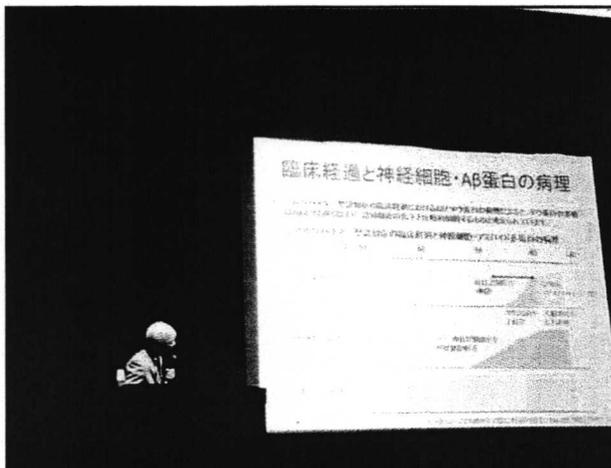
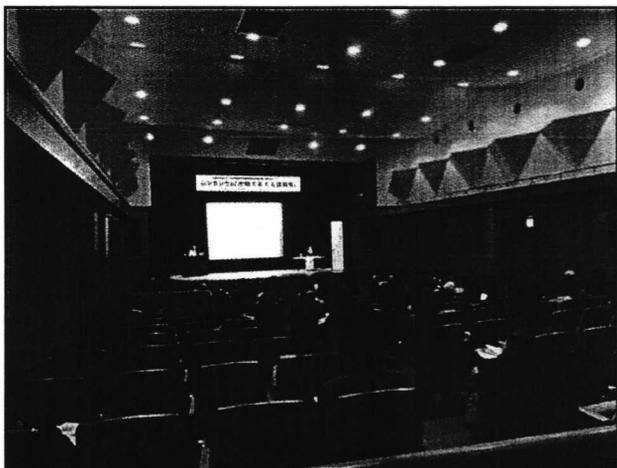
後援: 兵庫県、明石市

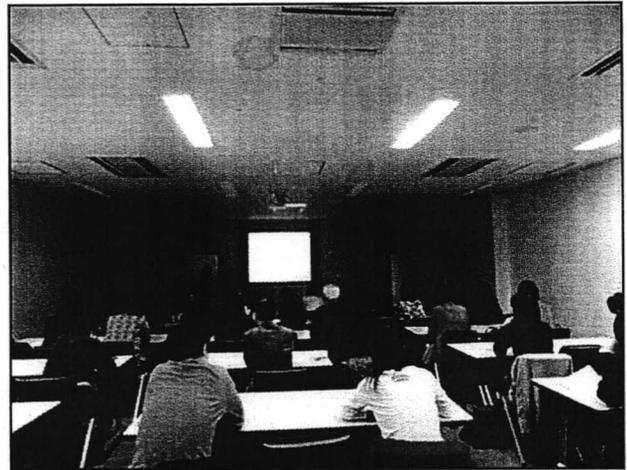
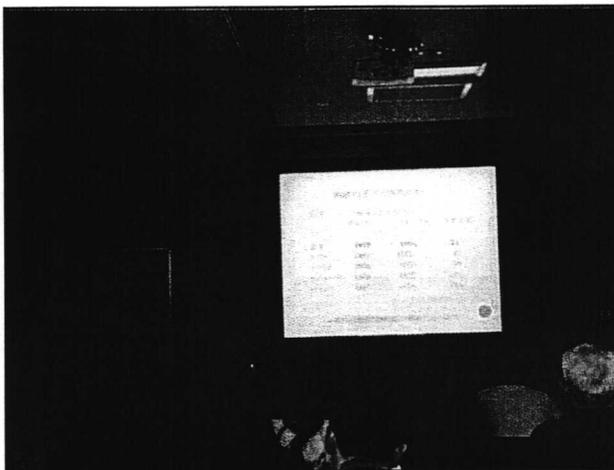
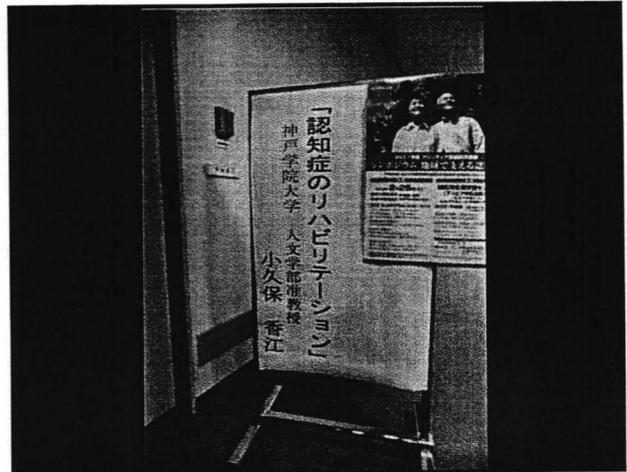
第I部 シンポジウム 13:30~15:15

司会 長谷川千洋(神戸学院大学)
基調講演 博野信次(神戸学院大学)
基調講演 三好千恵(神戸学院大学)
基調講演 博野信次(神戸学院大学)
基調講演 三好千恵(神戸学院大学)
基調講演 博野信次(神戸学院大学)
基調講演 三好千恵(神戸学院大学)

第II部 分科会 15:45~16:30

認知症の理解 認知症を学ぶ
認知症の支援 認知症への心理的支援
認知症のリハビリテーション





地域への間接的心理支援

- 地域における「児童虐待ストップ!」のための実践研究
- 通常学級におけるユニバーサルデザインの構想共有
- 心理臨床家の育成のための障害児関連施設での研修支援の開設
- 「地域で支える認知症」フォーラム

電話相談技術のトレーニング研修

- 地域子ども会活動における専門的グループワーカー養成事業

電話相談技術のトレーニング研修

担当研究者：日高正宏

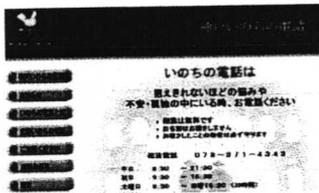
活動目的

地域における電話相談活動をしている団体と連携し、神戸学院大学の持つ理論と実践と研究を生かして、電話相談技術のトレーニングを行う。

また、このトレーニングを行うことによって、さらに本学の理論と実践、研究を発展させる。

電話相談技術のトレーニング研修

連携先「はりまいのちの電話」
http://www15.ocn.ne.jp/~inochi/



連携先「神戸いのちの電話」
http://www16.ocn.ne.jp/~ktc/

電話相談技術のトレーニング研修

心理臨床カウンセリングセンター研修会

電話相談スーパービジョン研修

日時:2012年2月26日(日)午前10時~午後4時

会場:神戸学院大学有明キャンパス
14号館3階カンファレンス室
神戸学院大学バス停門から学内坂下左手の建物

講師: 兵庫いのちの電話
研修指導主宰 中瀬 真弓
神戸学院大学人文学部
人間心理学科 教授 日高 正宏

2月26日 第1回研修会

- 兵庫県下の電話相談機関に呼びかけ、ベテラン相談員を対象に、スーパーバイザートレーニングを行った。
- 第1回として、参加人数を増やさず、9名のみとし、5時間かけて、丁寧に体験学習を重ねた。
- 次年度以降も、ぜひ継続して、研修会を開いてほしいという要望を受けている。

地域への間接的心理支援

- 地域における「児童虐待ストップ!」のための実践研究
- 通常学級におけるユニバーサルデザインの情報共有
- 心理臨床家の育成のための障害児関連施設での研修支援の開設
- 「地域で支える認知症」フォーラム
- 電話相談技術のトレーニング研修
- 地域子ども会活動における専門的グループワーカー養成事業

地域子ども会活動における
専門的グループワーカー養成事業

担当研究者: 日高正宏

活動目的①

地域で実際に子どもたちや高齢者との活動に取り組んでいる、一般社団法人クルレと連携し、描画を介在とするグループワークのあり方を検討する。今年度はその資料収集を行う。

①児童・高齢者絵画作品データ化

- 今年度は絵画作品の複写データ化のため、複写台、接写レンズなどを用意した。
- データ化の第1段階として、絵画作品、絵日記などの複写作業をはじめている。
- 来年度以後は、データの蓄積方法を検討し、検索・活用の方法を研究する。

神戸学院大学
心理臨床カウンスリングセンター

TEL:078-914-4791 FAX:078-914-4723
〒650-0192 神戸市灘区御崎1-1-1

心理臨床カウンスリングセンターの活動拠点
フロアエタの活動拠点
心理臨床カウンスリングセンター

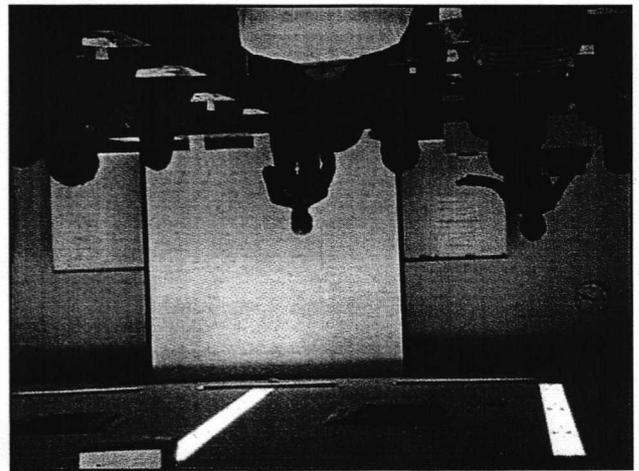
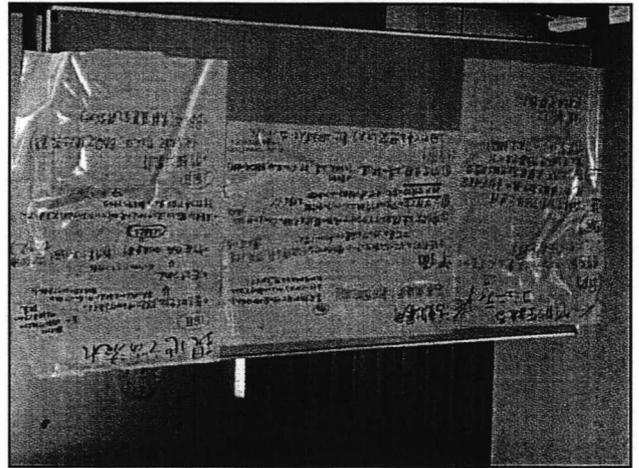
カウンスリングの内容

- ① 学業・就職・進路に関する相談
- ② 対人関係に関する相談
- ③ 子育てに関する相談
- ④ 心身の悩みに関する相談
- ⑤ 相談者のプライバシーを厳格に守ります。

相談スタッフ

- ◎ 心理学部 心理学専攻 准教授 藤田 浩一
- ◎ 心理学部 心理学専攻 准教授 山本 浩一

心理臨床カウンスリングセンター



地域への安全・安心の 心理支援

活動報告

地域への安全・安心の心理支援

- 心理学を生かした地域ボランティア養成講座
「震災ボランティアのこころの傷—予防と対応—」
- 対人援助職のための
ストレスマネジメント・セルフケア研修
- 神戸学院大学大学内及び大学周辺地域における
安全・安心向上のための実践研究
- 若者の非行防止・更生のための支援協働事業

地域への安全・安心の心理支援

- 心理学を生かした地域ボランティア養成講座
「震災ボランティアのこころの傷—予防と対応—」
- 対人援助職のための
ストレスマネジメント・セルフケア研修
- 神戸学院大学大学内及び大学周辺地域における
安全・安心向上のための実践研究
- 若者の非行防止・更生のための支援協働事業

心理学を生かした地域ボランティア養成講座 I 「震災ボランティアのこころの傷—予防と対応—」

担当研究者：日高正宏、三和千徳

活動目的

心理学の知識を身につけた地域ボランティアを養成。

従来は、被災者のPTSDを中心に考えていた一方、本研究では、被災者を支えるボランティアのこころの傷の予防やケアに注目する。

被災地ボランティアにおいても、相手や自分のこころを守る上での心理学的知識の必要性を伝えて、その具体的な対処方法をディスカッションする。

心理学を生かした地域ボランティア養成講座 I 「震災ボランティアのこころの傷—予防と対応—」



講師：
学際教育機構防災・
社会貢献ユニット長
前林清和 教授

ボランティア活動支援室
川口謙造コーディネーター

人文学部 石崎淳一
人文学部 三和千徳

座長：
心理臨床カウンセリングセンター
センター長 日高正宏

心理学を生かした地域ボランティア養成講座 I 「震災ボランティアのこころの傷—予防と対応—」



2011年
7月30日(土)
有瀬キャンパス
マナビーホール

約190人が参加

震災ボランティアを経験した後、身体的、心理的に不調をきたした学生の訴えをきっかけに、一般には知られていない、ボランティア自身が受ける「こころの傷」をテーマにした。

心理学を生かした地域ボランティア養成講座Ⅰ
「震災ボランティアのこころの傷—予防と対応—」



参加者の学生の声

個人でボランティアに行く人たちは、ほとんど事前研修や事後研修をしていません。セルフマネジメントやストレス反応、話の聞き方などを知った上で現地へ行くのと、それらを知らずに行くのでは全く違うことを知りました。震災ボランティアの心の傷を最小限に抑えるために、事前研修、事後研修が大切だと改めて感じました。次の活動に、生かしていきたいと思います。

【修士課程2年次生】

心理学を生かした地域ボランティア養成講座Ⅱ
「震災ボランティアとこころのケア-復興への長い道のりに寄り添うこと-」

講師:

学際教育機構防災・社会貢献ユニット長
前林清和 教授

広島国際大学大学院
 心理科学研究科
一丸藤太郎 教授

ディスカッション:

ボランティア活動支援室
川口謙造コーディネーター
 TKK学び合い連携センター
四宮千佳子コーディネーター
 人文学部 **三和千徳**
 心理臨床カウンセリングセンター
守田敦子

心理学を生かした地域ボランティア養成講座Ⅱ
「震災ボランティアとこころのケア-復興への長い道のりに寄り添うこと-」

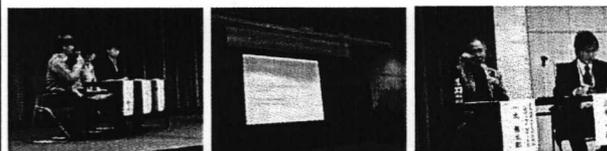


2012年
 2月8日(水)
 有瀬キャンパス
 マナビーホール

約100人が参加

東日本大震災への中長期的な支援で求められる「こころのケア」について、トラウマ研究の第一人者である広島国際大学一丸藤太郎先生にお話しいただき、ボランティアスタッフとのディスカッションを行った。

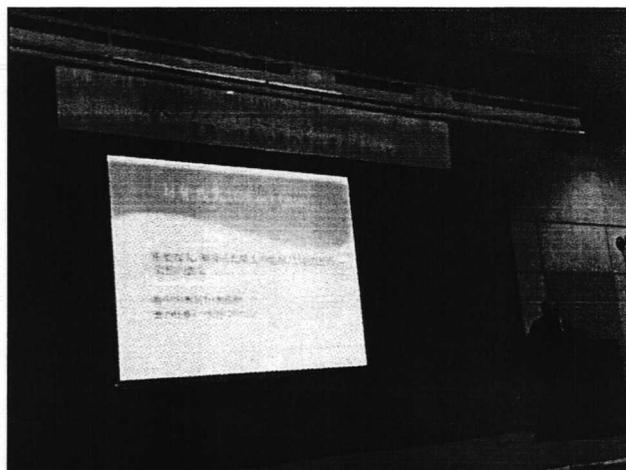
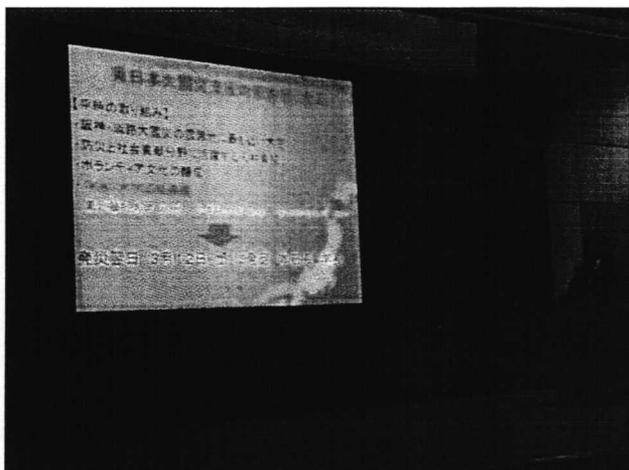
心理学を生かした地域ボランティア養成講座Ⅱ
「震災ボランティアとこころのケア-復興への長い道のりに寄り添うこと-」



参加者の学生の声

Post Traumatic Play について初めて詳しく知りました。震災からもうすぐ1年経ちますが、今だにコトバにできない人・・・色んな段階の人がいて、その人その人に合わせて、関係をつくっていくことが大切だと思いました。現地にいったら活かしていきたいです。

【他大学学生：本学ボランティアバス参加経験あり】



心理学を生かした地域ボランティア養成講座Ⅱ
「震災ボランティアとこころのケア-復興への長い道のりに寄り添うこと-」

参加者の学生の声

ボランティアの実質的な活動ばかりに目がいった従来の考え方と違い、本講座は「被災者によりそう」行動に焦点を当てられ非常に興味深かったです。

【本学学生】

震災翌日に対策本部を設置し、迅速な対応をとっていた我が校に改めて誇りをもった。・・・中略・・・
自分が被災地の宮城県にボランティアで行かせてもらったとき、子どもたちが地震ごっこをして反応に少し困ったことがあったが、それは子供なりにトラウマを克服しようという試みだったことを今日知れたので、次回はもう少し対応を考えようと思った。

【本学 防災・社会貢献ユニット生】

地域への安全・安心の心理支援

心理学を生かした地域ボランティア養成講座
「震災ボランティアのこころの傷-予防と対応-」

**対人援助職のための
ストレスマネジメント・セルフケア研修**

神戸学院大学大学内及び大学周辺地域における
安全・安心向上のための実践研究

若者の非行防止・更生のための支援協働事業

対人援助職のためのストレスマネジメント・セルフケア研修

活動目的 担当研究者：土井晶子

対人援助にかかわる地域の専門家（看護、保健、福祉、教育）を対象に、メンタルヘルスの観点から、組織における対人援助職の役割の知識提供・啓発活動を行う。

対人援助職の「燃え尽き」の防止、孤立感からの救済、他の援助職とのつながりの場を提供することにより、対人援助職のセルフケアの推進をめざす。

ベテラン講師による講演会、フォーカシングおよびグループワークをベースにしたセルフケアの支援プログラムの試案づくりを目指す

文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業

**職場のメンタルヘルス対策における
対人援助職の役割とセルフケア**

日程 2011年12月13日(火)
14:00~15:30

参加費無料(定員50名)
要事前申し込み

講師 **アスピア明石**
生涯学習センター 学習室2(JR明石駅前すぐ)
神戸市東灘区町6-1 TEL.078-918-5600

講師 **大庭 多美代 先生**
(現職地、(株)大庭産業健康推進センター 産業保健相談員、(株)メンタルヘルス支援センター 支援相談員、日本産業衛生学会理事、元天下匠フィナンシャルグループ 産業健康開発センター 部長)

職場のメンタルヘルスについての基礎的な知識と、職場におけるストレスと、ストレスによりメンタル不調におちいった時、対人援助職、特に上司や産業保健スタッフはなにができるのか、なにをするべきなのかについて、講師がメンタルヘルス対策相談員として蓄積した事例を交えて紹介します。加えて、近年関心の高まっている対人援助職自身のセルフケアの重要性についてもお話しします。

地域への安全・安心の心理支援

心理学を生かした地域ボランティア養成講座
「震災ボランティアのこころの傷-予防と対応-」

対人援助職のための
ストレスマネジメント・セルフケア研修

神戸学院大学大学内及び大学周辺地域における
安全・安心向上のための実践研究

若者の非行防止・更生のための支援協働事業

**神戸学院大学大学内及び大学周辺地域における
安全・安心向上のための実践研究**

担当研究者：吉野絹子、山本恭子
秋山 学、清水寛之

活動目的

地域における犯罪や事故などに対する不安は、地域住民が安心して生活することを阻害する要因である。また、大学の学内において不安な場所がある場合、学生が安心して学生生活をおくることを阻害することになる。

本プロジェクトでは、神戸学院大学の学内、大学周辺地域の安全・安心向上のための調査を行う。

学生が感じるキャンパス内の不安箇所に関する調査

●本年度は、有瀬キャンパス内において、学生がどのような場所で、どのような不安を感じているのかについて調査を実施した。
(調査の詳細は、先程RA板山が発表)

→ 調査結果は、キャンパス改善のための資料として総務部へ提出した。

●来年度は、地域住民がどのような不安を感じているのかについて調査を実施する予定である。

地域への安全・安心の心理支援

心理学を生かした地域ボランティア養成講座
「震災ボランティアのこころの備え-予防と対応-」

対人援助職のための
ストレスマネジメント・セルフケア研修

神戸学院大学大学内及び大学周辺地域における
安全・安心向上のための実践研究

若者の非行防止・更生のための支援協働事業

若者の非行防止・更生のための支援協働事業

活動目的

担当研究者：吉野絹子、木村昌紀

地域の安全・安心は、青少年の非行防止や犯罪者の更正と深く関わっている。

非行少年や犯罪者に対する現在の国の施策や処遇の実態を深く認識するため、少年鑑別所などへの見学・研修を行い、地域における防犯のあり方を検討する。

逸脱行動に走る子どもに対して、家庭や学校でできる問題行動への対応について、専門家を講師として、一般の方と対応を考える。

神戸少年鑑別所の見学

日時：2011年8月5日(金) 9:30~11:00
参加者：人文学部教員7名と大学院生7名

地域の犯罪は、身近な生活の場に関わりが深く、見学・研修を通して、若者の視点から、地域の安心・安全のための知識と手法を、矯正現場の職員から学習するために見学を実施した。

このような経験を重ねることにより、地域の安心・安全に取り組む若者の増加や非行少年の更生をサポートする活動へと繋がる事が期待される。

神戸少年鑑別所の見学



沿革

昭和29年1月 神戸市法務局、神戸市生田区「神戸少年鑑別所」を開設し、神戸市を管轄として「神戸少年鑑別所」及び「神戸少年鑑別所」を開設

昭和34年4月 「神戸少年鑑別所」を「神戸少年鑑別所」に改称

昭和35年8月 現所在地に「神戸少年鑑別所」を開設し、神戸市を管轄として「神戸少年鑑別所」と改称

昭和37年8月 「神戸少年鑑別所」を「神戸少年鑑別所」に改称

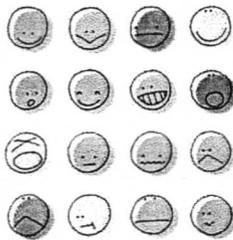
昭和44年12月 施設整備のため、神戸市を管轄として「神戸少年鑑別所」を「神戸少年鑑別所」に改称

平成13年4月 改正少年法施行

〒650-0001 神戸市生田区下馬場町10-7
TEL: 078-851-0781 FAX: 078-852-2525

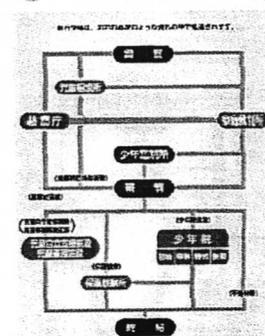
神戸少年鑑別所の見学

少年鑑別所のしおり



法務省矯正局

少年審判と処遇の流れ



神戸少年鑑別所の見学

参加者の学生の声

神戸少年鑑別所への見学を通して、少年たちの一日の生活の様子を学ぶことができ、職員の方々が少年たちの日々の生活に、真剣に向き合われていることを理解できた。

また、鑑別所内の各設備が充実しており、少年たちは審判を経て処遇を待つまでの間、安心して生活できる空間であると感じた。食事面や衛生面、適度な運動の配慮など、少年たちの心身のバランスを保つためにいろいろな配慮がされているのだと実感した。

【修士課程一年次生】

学術講演会の開催

日時：2011年12月7日（水）15：00～16：30

場所：神戸学院大学有瀬キャンパス14号館大実験室1

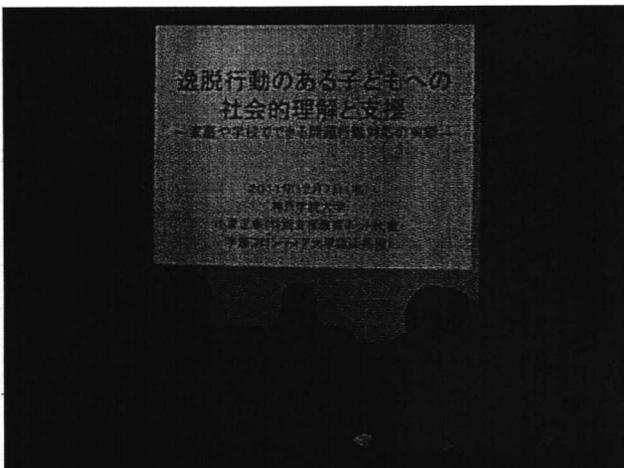
参加者：約50名

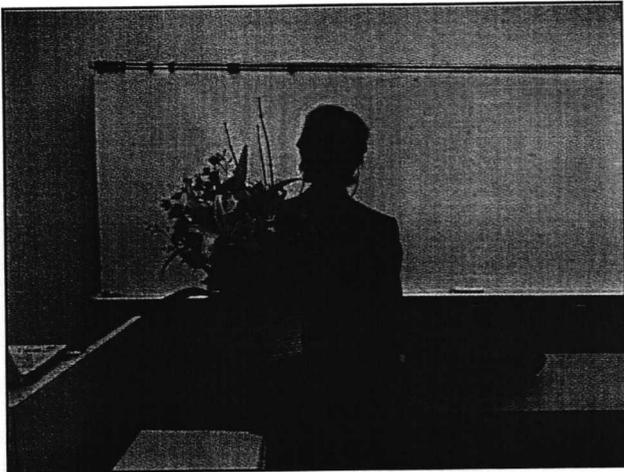
逸脱行動に走る子どもへの社会的理解と支援 —家庭や学校でできる問題行動対応の実際—

講演者：

特別支援ネット代表・元宮川医療少年院院長

小栗 正幸 先生





「地域力再発見」を考える

—地域研究長田センター実践研究報告—

司会 : 大塚 成昭

コメンテーター : 水本 浩典・細淵 清貴・林田 怜菜

1. 長田センターとは何か

【長田センターの制約】

- ① 神戸市立地域人材支援センターの3階約 55 m² (小学校教室1つ分の広さ)
- ② 地域のなかで学習する教室には成り得ない。
- ③ 長田センターの活用法はまったく未知数

2. 学術フロンティア推進事業を継承・発展させる

- ①「人・街・ながた震災資料室」との協働研究
- ②地域諸団体との連携活動
- ③「まちの文化祭」参加

「まちの文化祭」参加報告

おもちゃが語る鉄人 28 号の魅力～なつかしの昭和館～小林コレクションから～

おもちゃ班

鉄人 VS 鬼太郎

鉄人班

はみだすサイズ! **BIG**な **HERO**～風景から生まれた鉄人 28 号～

モザイクアート班

水ゼミ撮影隊～笑いあり、涙あり、学生の葛藤を追う～

映像班

3. 地域との接点から生まれた実践研究

- ①地域文化を探る実践活動
- ②神戸映画資料館との協働実践研究
- ③学生の「学び」と地域の活動を融合する装置の創出
- ④地域との連携・協働実践活動の基礎となるワークショップの開催

4. 長田センターの埋蔵金

- ①神戸市立地域人材支援センター内の諸団体との連携
- ②地震・環境計測システム

5. 長田センターが発見する「地域力」の方向性

- ①地域内での連携の深化
- ②地域文化を探る新たな実践研究の創出
- ③地震・環境計測システムを中核とした地域連携

淡路夢舞台前 バス時刻表

淡路夢舞台前 ⇄ 高速舞子 片道500円 (小学生250円) / 三宮・新神戸 片道900円 (小学生450円)

2011年6月1日改正

上り			
淡路夢舞台前	→ 高速舞子	→ 三宮	→ 新神戸
6:55	7:10	-	-
7:20	7:35	-	-
7:50	8:05	-	-
8:16	8:31	8:58	9:08
8:46	9:01	9:28	9:38
9:16	9:31	9:58	10:08
9:31	9:46	10:13	10:23
9:46	10:01	10:30	10:40
10:16	10:31	10:58	11:08
10:20	10:35	-	-
10:46	11:01	11:28	11:38
11:16	11:31	11:58	12:08
11:46	12:01	12:28	12:38
12:51	13:06	13:33	13:43
13:46	14:01	14:28	14:38
14:46	15:01	15:28	15:38
15:46	16:01	16:28	16:38
16:16	16:31	16:58	17:08
16:46	17:01	17:28	17:38
17:16	17:31	17:58	18:08
17:36	17:51	18:18	18:28
17:46	18:01	18:28	18:38
17:48	18:03	-	-
18:16	18:31	18:58	19:08
18:38	18:53	-	-
18:46	19:01	19:28	19:38
19:16	19:31	19:58	20:08
19:46	20:01	20:28	20:38
20:16	20:31	20:58	21:08
20:46	21:01	21:28	21:38
21:16	21:31	21:58	22:08
23:01	23:16	-	-

下り			
新神戸	→ 三宮	→ 高速舞子	→ 淡路夢舞台前
-	-	6:30	6:45
6:05	6:20	6:50	7:05
6:45	7:00	7:30	7:45
-	-	7:40	7:54
7:15	7:30	8:00	8:15
-	-	8:10	8:24
7:45	8:00	8:30	8:45
8:15	8:30	9:00	9:15
8:40	8:55	9:30	9:45
-	-	9:45	9:59
9:15	9:30	10:00	10:15
9:45	10:00	10:30	10:45
10:15	10:30	11:00	11:15
-	-	11:20	11:34
10:45	11:00	11:30	11:45
11:20	11:35	12:05	12:20
12:15	12:30	13:00	13:15
13:15	13:30	14:00	14:15
14:15	14:30	15:00	15:15
15:15	15:30	16:00	16:15
15:40	15:55	16:25	16:40
16:05	16:20	16:50	17:05
16:45	17:00	17:30	17:45
17:15	17:30	18:00	18:15
17:35	17:50	18:20	18:35
17:45	18:00	18:30	18:45
-	-	18:45	18:59
18:15	18:30	19:00	19:15
18:45	19:00	19:30	19:45
-	-	20:25	20:39

平日のみ運転

土・日・祝日のみ運転

* 淡路夢舞台⇄三宮/新神戸の乗車券を2Fホテルショップにて販売しております。(ご乗車時のお支払いも可能です)

* 12月30日～1月3日は、土・日・祝日ダイヤになります。

CENTER FOR AREA RESEARCH AND DEVELOPMENT

CARD

KOBE GAKUIN UNIVERSITY

神戸学院大学地域研究センター事務局
〒651-2111 神戸市西区伊川谷町有瀬 518
TEL 078-974-4232 FAX 078-974-4258
E-MAIL frb@human.kobegakuin.ac.jp